



神奈川県

KANAGAWA

平成29年度

神奈川県立公文書館年報

平成30年 7 月

目 次

I 公文書館の概要

1 設立目的	1
2 役割	1
3 特色	1
4 沿革	2
5 組織	5
6 施設等の概要	6

II 平成 29 年度事業の内容

1 平成 29 年度の主な事業実績及び予算・決算の概要	7
2 資料の収集、選別、廃棄、保存、利用業務	
(1) 公文書の収集・保存・廃棄	9
(2) 古文書・私文書	10
(3) 行政刊行物・図書・逐次刊行物	11
(4) 収蔵資料の状況	12
(5) 資料の保存修復	13
(6) 資料の複製物作製	13
(7) 情報管理システム	14
3 普及・啓発活動業務	
(1) 展示の開催状況	14
(2) 講演会の開催状況	16
(3) 講座の開催状況	16
(4) ホームページによる情報発信	18
(5) 公文書館事業の庁内説明会	19
4 利用状況	
(1) 資料の利用状況	19
ア 資料の閲覧	19
イ 複写サービスの利用状況	22
ウ レファレンスの状況	23
エ 資料の館外貸出しの状況	23

オ 資料の掲載の状況	24
(2) 施設の利用状況	25
ア 中間保管庫等の利用状況	25
イ 会議室の利用状況	26

5 その他

(1) アーカイブズ実習生の受入	26
(2) 国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲの受入	26
(3) 人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ・カレッジの受入	26
(4) 大学による収蔵資料の見学実習受入	27
(5) 中学生職場体験学習の受入	27
(6) 神奈川県立公文書館見学会の開催	27
(7) 静岡県歴史的資料の選別収集に関する審査会委員への就任	27
(8) 神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	28
(9) 主な来館団体	29

III 参考資料

1 主な寄贈資料	31
2 寄託資料	32
3 神奈川県立公文書館条例	34
4 神奈川県立公文書館条例施行規則	37
5 神奈川県立公文書館公文書等選別基準	43
6 公文書館法	45
7 年度別利用状況一覧	46
8 神奈川県立公文書館平面図	52
9 都道府県公文書館一覧	54

I 公文書館の概要

1 設立目的

歴史資料として重要な公文書、古文書等の記録類を継続的に収集・保存し、県民共有の記録遺産として永く後世に伝えとともに、その収蔵資料を広く公開することにより開かれた県政の一翼を担う。

2 役割

上記の設置目的を踏まえて、公文書館の主な役割は以下のとおりである。

(1) 歴史資料の収集

県の機関が作成した行政文書で、保存期間が満了したものから歴史資料として重要な文書を選別し収集すること。また神奈川に関する歴史資料として重要な古文書、図書等を収集する。

(2) 歴史資料の保存

県民共有の記録遺産として、資料を良好な保存環境において保存する。

(3) 歴史資料の提供

資料を広く県民の閲覧等に提供する。

(4) 中間保管庫の運営

県の機関が作成した行政文書で保存期間が30年及び10年のもののうち、保存期間が5年を経過したものを中間保管庫に収め、行政文書管理規則による保存期間満了の期日まで保存する。

(5) 普及活動

県民の学習ニーズに応え、歴史資料として重要な行政文書、古文書等の歴史資料を後世に伝えていく重要性について県民の理解を得るため、展示、講座等を実施する。

(6) 調査研究

公文書館の運営に係る諸問題（行政文書の選別・収集、保存、修復、利用、電子記録の保存等）について、調査研究を行う。

3 特色

(1) 県のすべての公文書等の収集、選別

公安委員会関係を除く県の機関のあらゆる公文書の収集、選別について、神奈川県立公文書館条例及び同施行規則により公文書館長の権限としている。

(2) 選別基準の確立と公表

後世に残すべき公文書、廃棄すべき公文書を選別する基準（神奈川県立公文書館公文書等選別基準）を定めて公正で客観的な選別を担保している。

(3) インターネット上で資料が検索できるシステムの整備

利用者がインターネット上で任意の言葉で容易に歴史的公文書及び古文書等収蔵資料の検索ができるシステムを平成14年3月から運用している。

(4) 中間保管庫としての機能

本庁機関の10年及び30年の保存文書について、文書完結後5年が経過した時点で公文書館が引継ぎを受け、保存期間が満了するまで一括して当館の「中間保管庫」で保存している。組織の改廃等による資料の散逸防止に効果的である。

4 沿 革

(1) 公文書等保存施設設立の気運

神奈川県では、戦前期の公文書は明治期の県庁舎の火災、関東大震災、太平洋戦争での米軍上陸を前にした焼却などで多くが失われ、極めて少数が保存されているだけである。また、近年の急速な都市化が古文書類の消滅に拍車をかけた。

このような中で、神奈川県政100年を記念して、昭和41年に県史編集準備室が設置された。翌年から、県史の編集が始まったが、基礎資料となる公文書や古文書が神奈川県内には少なかったため、全国から収集することになった。このようにして、収集された貴重な資料を県史編集事業終了後においても保存し、県民も利用できるようと検討され、昭和47年、図書館の増築計画と併せて、文化資料館を設置し、資料の保存に努めてきた。

(2) 公文書館の設立に向けた動き

ア 公文書館設立の検討

神奈川県は、昭和58年、全国に先がけて情報公開制度をスタートさせた。同時に、制度を一層充実させるため、公文書等を保存する公文書館の新設が将来課題として残った。一方、歴史学者等からは官公庁が作成し、保有する公文書等を歴史の真実を伝えるために必要なものとして、適正かつ確実に収集、保存し、県民の利用に役立てる体制の整備充実が求められた。

こうした背景を踏まえて、昭和60年に総務部文書課長、県民部県政情報室長、県民総務室長、教育庁社会教育部社会教育課長を委員とする「公文書等の資料管理に関する検討委員会（昭和61年から「公文書等の資料管理に関する調査研究委員会」と改組）」を設置し、全庁的な視野で公文書館設立の検討が開始された。

その検討結果は、

- ① 県の機関の非現用公文書を対象として収集し保存する。
- ② 公文書館を情報公開制度の延長線上にある施設と位置付ける。
- ③ 文化資料館の公文書館的機能の部分と文書課の公文書保存業務の一部を吸収する。
- ④ 全庁的にかかわる事業の調整機能を有する知事部局に設置する。

などであった。

イ 公文書館の基本構想策定

昭和63年に学識者等を委員とした「公文書館（仮称）構想懇話会」が設置され、庁内組織の「公文書等の資料管理に関する調査研究委員会」で検討した結果を含め、7回にわたり審議し、平成元年10月に提言として知事に報告された。

この提言を基本構想として、平成4年4月に公文書館の運営に関する基本計画が策定された。

ウ 建設事業

建設地は県有地の有効利用、立地条件等総合的な観点から検討し審議した結果、県の施設が集中している横浜市旭区の二俣川地区に建設することとし、平成元年3月に用地を取得した。

同年5月から建設着手前の地質調査、用地測量及び埋蔵文化財試掘調査を実施した。同年9月にプロポーザル方式により設計業者が決定し、調査設計、続いて基本設計が開始され、平成2年9月には公文書館への接続道路の拡幅工事が始まった。建物本体工事費は、平成3年度から3か年の継続事業として平成3年度当初予算に計上され、同年10月に着工、平成5年7月に竣工した。

[年 表]

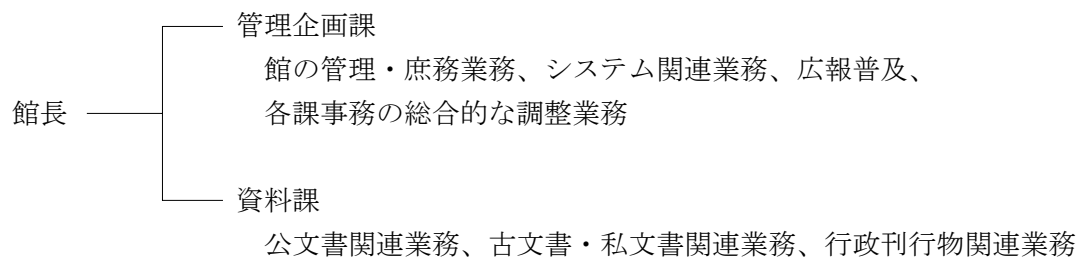
昭和41年7月	・ 県史編集準備室を企画調査部に設置
42年4月	・ 県史編集室を企画調査部に設置 県政100年を記念して「神奈川県史」編集を開始
9月	・ 文書館設立に向けての県史編集連絡会議を開催
43年8月	・ 県史編集資料保存・利用のための検討を開始
10月	・ 第1回神奈川県立総合資料館（仮称）設立準備懇話会を開催 ・ 総合資料館（仮称）の設立を県史編集室が提案 ・ 教育庁社会教育課が図書館サービス拡充のための図書館増築計画を提案
44年3月	・ 総合資料館設立と図書館増築を一本化した文化資料館新築工事設計調査費を計上
45年10月	・ 文化資料館建設工事着工
47年8月	・ 文化資料館を図書館に併置
53年4月	・ 文化資料館において歴史的公文書の収集開始
54年12月	・ 神奈川県地方資料・公文書を守る会が県議会に文書館設置を請願
57年7月	・ 「神奈川県の情報公開制度に関する提言」の中で公文書館の新設の検討を提起
58年1月	・ 学識者連名による「神奈川県近代資料編集所（仮称）設置要望書」受理
59年4月	・ 神奈川地域史研究会からの「県立文書館の設立要望書」受理
60年4月	・ 庁内組織の「公文書等の資料管理に関する検討委員会」を設置
61年4月	・ 「公文書等の資料管理に関する検討委員会」を廃し、「公文書等の資料管理に関する調査研究委員会」を設置
62年12月	・ 公文書館法公布
63年7月	・ 「公文書館（仮称）構想懇話会」を設置
平成元年3月	・ 公文書館建設用地取得
5月	・ 建設地の地質調査及び測量調査開始
7月	・ ヨーロッパにおける公文書館等の調査実施
10月	・ 「公文書館（仮称）構想懇話会」から知事への提言（提言を公文書館基本構想とする。）
2年4月	・ 建設のための基本設計開始
7月	・ アメリカにおける公文書館等の調査実施
9月	・ 建設地への接続道路拡幅工事開始
11月	・ 文化資料館保管資料等の移管について協議開始
3年10月	・ 建物本体工事着工

平成 4年 4月	・公文書館（仮称）の運営に関する基本計画策定
6月	・「公文書館（仮称）運営検討委員会」を設置
5年 7月	・建物竣工
10月	・県議会9月定例会で「神奈川県立公文書館条例」及び文化資料館を廃止するための「神奈川県立図書館条例の一部を改正する条例」可決
11月	・文化資料館廃止
	・公文書館開館
	・神奈川県立公文書館運営協議会発足
9年 4月	・公文書館の所管が県民総務室から県政情報室に移管
10年 11月	・開館5周年記念行事実施
11年 6月	・公文書館の所管が県政情報室から広報県民課に移管
13年 3月	・ホームページを開設
	・神奈川県立公文書館運営協議会廃止
14年 3月	・ホームページでの検索サービスを開始
15年 11月	・開館10周年記念行事実施
20年 4月	・公文書館の所管が広報県民課から情報公開課に移管
24年 3月	・神奈川デジタルアーカイブを開始
25年 4月	・公文書館の所管が県民局県民活動部情報公開課から政策局総務室に移管
8月	・開館20周年記念行事実施（～26年3月）
26年 4月	・公文書館の所管が政策局総務室から政策局情報企画部情報公開課に移管
28年 4月	・公文書館の所管が政策局情報企画部情報公開課から県民局くらし県民部情報公開広聴課に移管
30年 4月	・公文書館の所管が県民局くらし県民部情報公開広聴課から政策局政策部情報公開広聴課に移管

5 組 織

公文書館は、政策局政策部情報公開広聴課所管の地方自治法第244条に規定する公の施設であり、組織及び分掌事務並びに職員の配置は、下記のとおりとなっている。

(1) 組織



(2) 職員構成

(平成30年4月1日現在)

職名 組織	館長	課長	副主幹	主査	主任主事	主事	非常勤職員	計	備考
館長	1							1	
管理企画課		1		2		1	1	5	
資料課		1	1	3	1	2	6	14	
計	1	2	1	5	1	3	7	20	

6 施設等の概要

(1) 施設の概要

ア 所在地	横浜市旭区中尾一丁目6番1号 (〒241-0815) TEL 045 (364) 4456 FAX 045 (364) 4459
イ 地域・地区	住居地域 準防火地域 第3種高度地区
ウ 前面道路	敷地北側 幅員10.5m (車道6.5m 両側歩道2.0m)
エ 敷地面積	17,071 m ²
オ 建築面積	3,672 m ²
カ 延床面積	9,956 m ² (書庫面積 3,189 m ² /収容能力 約105万冊・点)
キ 構造・規模	鉄骨・鉄筋コンクリート造り、地下1階・地上4階建て
ク 駐車場	35台駐車可能
ケ 開館	平成5年11月1日

(2) 建物の特色

ア 周辺環境との調和、閉鎖性の払拭

公文書館としての文化性、たたずまいを配慮し外壁に御影石・タイルなどの自然素材を用いて周辺環境との調和を図った。

また、閉鎖的印象を持たれがちな窓のない書庫部分の外壁にデザイン上の工夫をし、県民に開かれた公文書館のイメージを表現した。

イ 資料保存のための安全性確保

資料保存の安全性を第一に考え、書庫がある高層棟の屋根を二重防水とした。また、敷地の地形上、建物の2階までが裏地の斜面に面するので、湧水、結露等を考慮し、建物周囲にドライエリアを設けた。

一方、設備面において、書庫は恒温恒湿を保つため、二重壁とし、温度は22度から25度、湿度は55%程度を保つために専用の空調機械を設けた。書庫内の資料の劣化を防ぐために照明器具は紫外線をカットするものを使用している。

ウ 文化のための1%システムの活用

(建設費の1%相当額で文化的な装飾や工夫を施すシステム)

和紙で作成された古文書などの資料を保存し、公開する公文書館の雰囲気づくりのため、1階エントランスホールの各所に県の花「やまゆり」を和紙漉(す)きの技法で描いた和紙を挟み込んだペアガラスを用いた。

(3) 閲覧室の概要

閲覧室の主な設備及び閲覧資料は、以下のとおりである。

ア 面積	・ 636 m ² (大型資料閲覧室 44 m ² 、検索コーナー 47 m ² 、受付 35 m ² を含む)
イ 席数	・ 49 席
ウ 設備	・ マイクロフィルムリーダー 3 台 ・ 資料検索用端末機 (パソコン) 3 台 ・ 視聴覚コーナー機器設置 (テレビ、ビデオデッキ)
エ 資料検索手段	・ 資料検索用端末機を直接操作して検索 ・ 各種冊子目録 (所蔵目録、所在目録) ・ 各種カード目録
オ 主な開架資料	閲覧室には参考図書、行政刊行物を中心として、約 3 万冊の資料が開架されている。主な資料は、以下のとおりである。 ・ マイクロフィルム版 横浜貿易新報／神奈川新聞 ・ 歴史関係参考図書 ・ 神奈川県史資料・県内市町村史 ・ 官報 ・ 公報 (神奈川県公報、横浜市報、川崎市公報、横須賀市報) ・ 議会会議録 (県議会会議録、横浜市議会会議録、川崎市議会会議録、横須賀市議会会議録、県内各市議会会議録) ・ 行政刊行物 ・ 雑誌類 ・ 地図 ・ 新聞

II 平成 29 年度事業の内容

1 平成 29 年度の主な事業実績及び予算・決算の概要

公文書館の役割である資料の収集、保存及び利用に関する事業の充実を図った。

県の知事部局をはじめとする各機関の本庁及び出先機関で作成され、保存期間の満了した公文書を収集し、選別を行い、適切に保存するとともに、広く利用に供するよう整備した。

また、神奈川に関する古文書等の収集についても、所在調査を行い、必要な古文書資料等の収集に努めた。

さらに、県民の学習ニーズに応え、公文書、古文書等の歴史資料を保存し、後世に伝えていくことの重要性について県民の理解を深めるため、展示、講座等の事業を行った。

主な事業実績の概要は、次のとおりである。

事業名	内容
1 公文書の収集・選別・廃棄	<ul style="list-style-type: none"> 知事部局をはじめとする本庁各課及び出先機関の保存期間の満了した公文書を収集し、歴史資料として重要な公文書の選別を行い、それ以外の公文書を廃棄した。 <p>(収集実施期間 本庁各課 6月、出先機関 6～10月)</p>
2 古文書等の所在調査	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の歴史に関する古文書等の所在を調査し、978点(14,844コマ)の古文書をデジタル画像化にて収集した。 古文書の寄贈・寄託事務を進めた。(実施時期 4～3月)
3 その他資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> 行政刊行物、神奈川の歴史に関する図書等の資料を収集した。(実施時期 4～3月)
4 資料の整理・修復	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的公文書及び古文書について、適切な保存及び利用のため、資料概要の作成等資料の整理を行い、目録を作成した。 資料の修復等を行った。(実施時期 4～3月)
5 展示の実施	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示「かながわの漁業－東京湾漁業組合ができるまで－」(12月15日～3月31日) 常設展示「古文書・公文書は面白い」(4月16日～11月30日) 常設展示「公文書館の仕事紹介」(4月16日～3月31日) ①公文書館ってどんなところ? ②公文書館で何ができるの? ③行政文書から歴史的公文書へ ④古文書・私文書の収集から公開へ ⑤資料を検索してみよう ⑥歴史資料所在調査事業 ⑦資料の修復 記念展示「神奈川の海外引揚－新規公開資料『在外私有財産実態調査票』をめぐって－」(10月1日～3月31日) 県立図書館合同展示「明治新時代 神奈川の風景」(2月9日～5月9日)
6 講演会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 在外私有財産実態調査票公開記念講演会「海を渡った県民たち－海外引揚から見たアジアと日本－」(10月14日)
7 講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> 古文書講座入門編(6月25日～7月23日 5日間、9月3日～10月1日 5日間) アーカイブズ講座(8月27日) 古文書講座応用編(11月12日～12月10日 5日間) 生涯学習講座(5月27日) 夏休み小・中学生親子講座(8月22日)
8 収蔵資料データの入力	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料データを入力した。 <p>(実施時期 4～3月)</p>

平成 29 年度予算及び決算の概要は次のとおりである。

公文書館費

(単位：千円)

事業名	予 算 額 決 算 額	説 明
維持運営費	56,064 54,524	・ 公文書館の施設維持管理及び維持運営に要する経費
事業費	33,892 33,731	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料（公文書等）の収集及び廃棄経費 ・ マイクロフィルム撮影委託経費 ・ 古文書資料所在調査経費 ・ 資料の整理及び修復経費 ・ 講座及び展示の開催経費 ・ 機器、ソフトの使用料及び保守料 ・ システム運用に伴う消耗品費 ・ 収蔵資料のデータ入力経費
合 計	89,956 88,255	

2 資料の収集、選別、廃棄、保存、利用業務

(1) 公文書の収集・保存・廃棄

ア 収集（引渡し、引継ぎ（中間保管庫））の実施状況

県の各機関が作成し、保存期間の満了した公文書等の中から歴史資料として重要なものを保存し、閲覧に供するため、公文書等の収集はその第一歩として重要であることを認識し、業務の円滑な推進を図っている。

(ア) 引渡し

公文書等の引渡しについては、公文書館条例第3条で、県の各機関（公安委員会を除く。）に、その保存する公文書等が現用でなくなったときには、当該公文書等を公文書館に引き渡すことを義務づけ、公文書等の引渡しがスムーズに行われるよう規定している。

この条例の趣旨を実効性あるものとするため、県の全機関に対する説明会を開催して、その理解を得ることに努めている。

なお、平成 29 年度は本庁各室課、出先機関の文書保存箱 9,800 箱の文書と既に公文

書館の中間保管庫に移され保存されていた簿冊（10年、30年保存文書）1,417冊の引渡しを受けた。

(イ) 引継ぎ（中間保管庫）

本庁機関の10年及び30年の保存文書については、文書完結後5年が経過した時点で総務局文書課や企業局、教育局等の文書主管課から公文書館が引継ぎを受け、保存期間が満了するまで一括して当館の中間保管庫で保存することとしている。平成29年度は、2,081冊の引継ぎを受けた。

なお、中間保管庫に保存されている公文書は、その保存期間が満了した時点で公文書館への引渡しが行われる。

中間保管庫内文書件数

(平成30年3月31日現在)

部局委員会名	文書件数	30年保存文書	10年保存文書
知事部局	28,603	25,667	2,936
企業局	3,010	3,010	0
教育局	3,238	2,822	416
各局委員会	632	567	65
(独法)病院機構	19	19	0
合計	35,502	32,085	3,417

イ 選別・廃棄の実施状況

県の各機関では、毎年膨大な量の公文書を作成しており、すべての公文書等をそのまま保存することは不可能である。

そこで、公文書等の中から、歴史を後世に継続的に伝えるため重要なものを選別して永久保存し、それ以外のは廃棄することとしている。

選別については、公文書館条例第4条で選別基準を設けることが規定されており、これを受けて選別基準及び選別のための細目基準26項目が定められている。

平成29年度は、本庁機関及び出先機関の公文書件数197,417件(簿冊1,417冊を含む。)の中から3,135件(簿冊915冊を含む。)を選別した。選別率は1.6%であった。

また、選別結果については、収集を行った県の各機関に通知している。

なお、知事部局以外の各局委員会等の選別、引渡し及び廃棄の方法については、知事と各局委員会等の任命権者との間において「文書事務の執行に関する覚書」を締結し処理している。

(2) 古文書・私文書

ア 古文書所在調査

県内の旧家などに保存されている古文書は、都市化の進行、文書所蔵者の世代交代などにより、散逸のおそれがある貴重な歴史資料・文化財であることから、これらの資料を調査した上で、目録の作成、保存のための防虫処理を施すとともに、一部資料についてはデジタル画像化し、県民の利用に供する。

平成 29 年度 古文書所在調査実施結果

調査先	所在地	資料総数 (点)	調査数 (点)	目録 作成数	デジタル 画像化数 (点)	調査内容	資料内容
虫沢区有文書	松田町寄	1,402	1,402	1,402	978	所在確認 資料整理	名主・戸長文書

イ 収集（寄贈、寄託、購入）

資料は現地保存が原則であるが、家の建替え、相続、その他の理由により廃棄される恐れのある場合は、各市町村と協議して当館に寄贈、寄託を受けることとしている。

また、資料が市場に流れた場合には、できるだけ購入などの方法により対応する。一部、貴重な資料については、現地に出向きデジタル画像化して収集する。

平成 29 年度 収集結果

受入区分	資料名	受入数 (点)	資料内容
購入	・相州陶綾郡大磯村御縄打水帳	4	江戸期の検地帳の写し
	・相州陶綾郡寺坂村検地帳	2	江戸期の検地帳、検地名寄帳の写し
	・足柄上郡松田町松田惣領 油屋本店文書	4	大正期の商家経営関係資料
	・高座郡茅ヶ崎村 岸家文書	12	明治期の米穀商経営関係資料
	・相州二宮停車場前 添田家文書	130	明治期の雑穀商組合関係資料
	・足柄上郡酒匂村 鮮魚塩物店通帳	1	大正期の商家経営関係資料
	・足柄上郡 矢野氏日記	1	大正期の個人の日記
寄贈	・富濱利郎氏旧蔵資料（追加）	87	絵葉書、記念切符、ポスター類など
	・相模国足柄上郡西大井村地図	17	明治初期作成の区分地図
	・相模国三浦郡上宮田村 須原家文書	25	江戸期漁業、土地売買関係文書など
計		283	

(3) 行政刊行物・図書・逐次刊行物

県及び県内市町村等が作成した刊行物、また神奈川の歴史に関する図書を収集対象としている。

公文書館では、開館時に文化資料館から行政刊行物、図書等の移管を受け、これらを母体に、開館後も収集、保存に努めている。

なお、県で作成した行政刊行物については、「県政情報センター等における情報提供にかかる事務処理要領」に基づき、県民へ提供できる資料の作成所属は 14 部を県政情報センターに納入し、そのうちの 1 部が公文書館に送付されるシステムになっている。

平成 29 年度 行政刊行物・図書の収集冊（点）数

管理換※	寄 贈	購 入	編 入※	計
冊 3 9 5	冊 4 9 2	冊 2 2	冊 1 , 0 3 8	冊 1 , 9 4 7

※管理換：庁内各所属から送付されたもの

※編入：雑誌類を製本し、後に図書として受け入れたもの及び記者発表資料

(4) 収蔵資料の状況

公文書館の開館に際して、文化資料館で収蔵されていた歴史的公文書、古文書、私文書などの文書資料、行政刊行物及び神奈川の歴史に関する図書、神奈川県史編集事業で収集された資料等が公文書館に移管された。

また、公文書館の設置に併せて改正された神奈川県文書管理規程（現・神奈川県行政文書管理規則及び同規程）に基づき、保存年限が 30 年又は 10 年に属する現用公文書のうち、保存期間が 5 年を経過したものについて、知事部局及び各局委員会等の文書主管課から引継ぎを受けた。

公文書館の開館時の収蔵資料は、主に上記の資料によって構成されている。

公文書館の開館後は、県立公文書館独自に、「公文書、古文書その他の記録で歴史資料として重要なもの」（公文書館条例第 2 条）を収集している。

平成 29 年度末までの資料収蔵状況

資料区分	平成 28 年度 末数	平成 29 年度 受入	平成 29 年度 末数	備 考 (資料の内容)	
歴史的公文書	冊・点 230, 858	冊・点 3, 135	冊・点 233, 993	保存期間が満了し、29 年度に引渡しを受けた文書から選別したもの	
古文書・私文書	171, 087	283	171, 370	江戸時代名主文書ほか	
行政刊行物・図書	168, 364	1, 947 不明本削除 △ 2	170, 309	県発行刊行物等行政刊行物、参考図書類	
現用公文書※	34, 838	受入 2, 081 払出 △ 1, 417	35, 502	保存期間が 30 年及び 10 年の現用公文書で、完結後 5 年を経過して引継ぎを受けたもの	
その他の資料	マイクロフィルム類	31, 477	356	31, 833	公文書、古文書等
	フィルム・テープ	2, 139	-	2, 139	16 ミリフィルム・ビデオテープ等
	県史編集事業で収集した資料	141, 428	-	141, 428	
計	780, 191	15, 686	786, 574		

※ 現用公文書の受入は文書主管課からの引継ぎ及び主務課からの返還簿冊の返却を、払出は公文書館への引渡し及び主務課への返還等を示す。

(5) 資料の保存修復

ア 定義

当館における「資料保存」とは、「価値ある資料を、よりオリジナルに近い状態（内容・形態）で利用できるように、その劣化を抑制・遅延させ（＝予防）、かつ治療・機能回復（＝修復）することで延命（長期保存）する組織的営み」と定義し、これに取り組んでいる。

イ 推進組織

当館の資料保存に関連する計画立案、予算要求、課題・対策の検討、状況の確認、課間の調整などを行う会議体として、公文書館資料保存調整会議を平成 27 年 9 月に設置し、ほぼ 3 ヶ月に 1 回の割合で開催している。

ウ 予防的保存

(ア) 保存環境の管理

収蔵資料を保管している書庫内の温度・相対湿度の適正維持は建物管理の委託先会社が担うが、重要箇所について独自にモニターし課題があれば対応を求めている。

新たに、すべての書庫内と展示室ケース内の空気質調査（酢酸・ギ酸・ホルムアルデヒド・アンモニア）を実施し、資料に劣化を及ぼす問題個所の特定と対策を進めている。

(イ) 有害生物被害対応（IPM）

寄贈・寄託・購入により新規に受け入れた古文書・私文書については酸化エチレン剤を用いた燻蒸を実施しているほか、有害生物の生息調査を年 4 回実施している。展示室の展示台に用いられ、文化財害虫の食害源となりうるフェルト素材をポリエステル素材に張り替えた。4 月の資料点検期間内には書庫内の特別清掃を実施している。

(ウ) 保存容器収納

段階的保存対策として中性紙素材の保存容器を作成し（320 箱）、歴史的公文書（簿冊）をこれに収納している。古文書・私文書については中性紙の保存袋に整理し、保存している。

(エ) 代替・複製化

原資料の保護対策として資料を媒体変換（マイクロフィルム撮影 55,054 コマ、デジタル画像化 117,064 コマ）するとともに、劣化（ビネガーシンドローム）の進んだマイクロフィルムの複製化を実施（305 本）している。

エ 修復

利用と保存に供するよう、閲覧利用や展示に支障のあるもの、劣化の著しいものなどの状態の改善、修復を行っている。平成 29 年度において、公文書等 24 冊、古文書 6 点、行政刊行物・図書 9 冊の修復を実施した。虫損の激しい資料については主にリーフキャスティングによる修復を行った。（36 枚／4 冊）

(6) 資料の複製物作製

ア 経緯

当館は開館以来、本庁文書課のマイクロフィルム撮影業務を専任担当者を含めて引き継ぎ、所蔵資料を中心としたマイクロフィルム撮影を実施してきた。撮影専任担当者の退職に伴い、平成 25 年度以降、フィルム作成業務は外部委託化され、公文書館業務としてのマイクロフィルムの自家撮影は実質的に廃止された。

さらに、媒体変換等検討タスクフォース（平成 28 年度）の提言に添い平成 29 年度からは「複製物作製」の業務名のもとに、複製物はデジタル画像化を基本として外部委託

によって作製するものとした。この結果、マイクロフィルムを用いて複製する資料は中間保管庫に引き継ぐ現用公文書の一部のみとなった。

イ 目的・複製化対象資料の選定

資料の複製物を作製する目的としては、劣化対策と利用推進の2つの面がある。前者は具体的には「代替利用」「内容保存」「危険分散」によって原資料の長期保存を図るものである。資料の利用を促進する方策としては、構築予定の当館デジタルアーカイブで公開するための画像データを蓄積し、デジタルコンテンツ等を充実させることにあり、これらの目的を満たす資料から優先的に複製物作製の対象としている。

ウ 平成29年度の作製実績

現用公文書を作製したマイクロフィルム27本(55,054コマ)、デジタル画像は117,064コマ(歴史的公文書20,036コマ、古文書私文書30,008コマ、各種フィルム媒体52,176コマ、館外資料14,844コマ)であった。したがって、マイクロフィルムとしては、複製305本、購入分24本を含めて、合計356本を受け入れた。

(7) 情報管理システム

公文書館における情報管理システムの特徴は、収蔵している資料の特徴を反映している。公文書館の収蔵資料は歴史的公文書等であり、その中心は県機関の行政文書及び県域に所在していた古文書等である。こうした歴史的公文書等の情報要素は、作成組織(作成者)、受領者、組織変遷、関係組織、作成年代、表題、件名、文書名等で構成され、図書館等で所蔵する図書の情報要素(書名、著者名、分類表、内容、出版社、発行年等)とは大きく異なっている。したがって、歴史的公文書等に含まれる情報を的確に検索するためには、図書館等で運営されている図書館情報システムとは別の、公文書館独自の情報管理システムが必要になる。

このシステムでは、公文書館の収蔵する「歴史的公文書」、「古文書・私文書」、「行政刊行物・図書」、「その他資料」に加え、「資料群収蔵情報(当館及び他館における文書資料の収蔵コレクションに関する情報)」を迅速に検索することができる。

資料目録については、平成14年3月1日から順次ホームページでの検索サービスを開始した。

3 普及・啓発活動業務

(1) 展示の開催状況

ア 平成29年度においては、3回の展示を開催した。

第1回展示 見学者 5,626人

テーマ 常設展示「古文書・公文書は面白い」

期間 平成29年4月16日(日)～平成29年11月30日(木)

場所 公文書館 1階展示室

当館に収蔵する資料のうち、県の成立過程、江戸時代の鎌倉・江ノ島めぐり、震災と復興、鉄道などに関するものを紹介した。

第2回展示 見学者 1,877人

テーマ 企画展示「かながわの漁業―東京湾漁業組合ができるまで―」

期間 平成29年12月15日(金)～平成30年3月31日(土)

場所 公文書館 1階展示室

東京湾における漁業の実態と漁業権をめぐる争いの経過について、江戸時代から明治にかけての関連資料を紹介した。

第3回展示 見学者 1,585人

テーマ 常設展示「公文書館の仕事紹介」（「公文書館ってどんなところ?」、「公文書館で何ができるの?」、「公文書館ができるまで」、「行政文書から歴史的公文書へ」、「古文書・私文書の収集から公開へ」、「資料を検索してみよう」、「歴史資料所在調査事業」、「資料の修復」）

期 間 平成29年4月16日（日）～平成30年3月31日（土）

場 所 公文書館 1階ホール

公文書館の事業内容について、分かりやすく紹介した。

イ 平成29年度は、展示室の一部を使用して次の展示を開催した。

記念展示 見学者 4,082人

テーマ 「神奈川の海外引揚—新規公開資料『在外私有財産実態調査票』をめぐって—」

期 間 平成29年10月1日（日）～平成30年3月31日（土）

場 所 公文書館 1階展示室（中央のぞきケース）

平成29年度の展示観覧者数

年 月	開催日数	観覧者数	平均観覧者数	備考
平成29年 4月	12日	418人	34.8人/日	
平成29年 5月	23日	895人	38.9人/日	
平成29年 6月	26日	855人	32.9人/日	
平成29年 7月	25日	1,259人	50.4人/日	
平成29年 8月	26日	919人	35.4人/日	
平成29年 9月	24日	985人	41.0人/日	
平成29年10月	25日	1,373人	54.9人/日	
平成29年11月	24日	1,835人	76.5人/日	
平成29年12月	22日	1,595人	72.5人/日	
平成30年 1月	22日	1,141人	51.9人/日	
平成30年 2月	23日	1,000人	43.5人/日	
平成30年 3月	26日	895人	34.4人/日	
合計（平均）	278日	13,170人	47.4人/日	

ウ 平成24年度から、県立図書館との合同展示を開催している。

テーマ 「明治新時代 神奈川の風景」

期 間 平成30年2月9日（金）～平成30年5月9日（水）

場 所 神奈川県立図書館 本館 1階展示コーナー

(2) 講演会の開催状況

当館に寄贈された「在外私有財産実態調査票」の新規公開を記念して、同資料を紹介するとともに時代背景への理解を深めることを目的とした講演会を開催した（神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会と共催）。

テーマ 「海を渡った県民たちー海外引揚から見たアジアと日本ー」

開催日時 平成29年10月14日（土）14時～16時

講師 加藤 聖文 氏（国文学研究資料館准教授）

会場 公文書館 大会議室（2階）

参加者数 40人

(3) 講座の開催状況

平成29年度は、前年度に引き続き古文書講座入門編、応用編及びアーカイブズ講座をそれぞれ開催したほか、新たに生涯学習講座及び夏休み小・中学生親子講座を開催した。

ア 古文書講座入門編

県民の歴史に対する関心が高く、特に古文書を解読したいとの要望が数多く寄せられている。これらの県民ニーズに応えるとともに当公文書館の役割を理解してもらうことをねらいとして、初心者を対象とした講座を毎年実施している。

また、より多くの方が受講できるよう、同じレベルで内容を変えて夏、秋の2回実施した。

- ・会場 公文書館 大会議室（2階）
- ・時間 13時30分～16時
- ・受講者数 264人（夏130人、秋134人）
- ・受講料 5,000円（消費税を含む。）

(ア) 夏

開催日	主題及び講師
第1回 6月25日（日）	「くずし字入門ー江戸時代の文書を読んでもみようー」 講師 上田 良知（神奈川県立公文書館）
第2回 7月2日（日）	「江戸時代の村の文書を読んでもみよう①」 講師 高木 謙一 氏（駒澤大学）
第3回 7月9日（日）	「江戸時代の村の文書を読んでもみよう②」 講師 高木 謙一 氏（駒澤大学）
第4回 7月16日（日）	「江戸時代の長文資料を解読しよう①」 講師 上田 良知（神奈川県立公文書館）
第5回 7月23日（日）	「江戸時代の長文資料を解読しよう②」 講師 上田 良知（神奈川県立公文書館）

(イ) 秋

開 催 日	主 題 及 び 講 師
第1回 9月3日(日)	「くずし字入門－江戸時代の文書を読んでみよう－①」 講師 上田 良知 (神奈川県立公文書館)
第2回 9月10日(日)	「くずし字入門－江戸時代の文書を読んでみよう－②」 講師 上田 良知 (神奈川県立公文書館)
第3回 9月17日(日)	「明治時代の文書を読んでみよう」 講師 上田 良知 (神奈川県立公文書館)
第4回 9月24日(日)	「古文書からみる江戸時代の寺院①」 講師 斉藤 照徳 氏 (駒澤大学)
第5回 10月1日(日)	「古文書からみる江戸時代の寺院②」 講師 斉藤 照徳 氏 (駒澤大学)

イ 古文書講座応用編

古文書講座入門編の修了者をはじめ広く一般を対象として、資料の背景にある歴史を考察するための古文書解読を重点とした内容で毎年実施している。

- ・会 場 公文書館 大会議室 (2階)
- ・時 間 13時30分～15時30分
- ・受講者数 144人
- ・受講料 5,000円 (消費税を含む。)

開 催 日	主 題 及 び 講 師
第1回 11月12日(日)	「三増合戦の時代」 講師 山口 研一 氏 (愛川町郷土資料館)
第2回 11月19日(日)	「山村の史料を読む－丹沢御林と煤ヶ谷村－」 講師 椿田 有希子 (神奈川県立公文書館)
第3回 11月26日(日)	「元禄大地震での小田原城下の被害状況」 講師 下重 清 氏 (東海大学)
第4回 12月3日(日)	「幕末の外国人遊歩地と見張番屋」 講師 小松 修 氏 (日本大学)
第5回 12月10日(日)	「山口コレクションの書簡を読み解く－渡欧中の伊藤博文宛て書状に見る明治前期の内政と外交－」 講師 荒船 俊太郎 氏 (日本学術振興会特別研究員)

ウ アーカイブズ講座

公文書館が所蔵する歴史的公文書は、県民共有の知的資源である。そこで当館事業や公文書制度に対する理解を深め、収蔵資料の利用を促進するため、平成23年度から毎年実施している。

- ・会 場 公文書館 大会議室 (2階)
- ・受講者数 106人
- ・受講料 無料

開催日	時間	主題及び講師
8月27日(日)	13時35分 ～14時35分	「三多摩泣き別れ物語ー明治26年の衝撃ー」 講師 薄井 達雄(神奈川県立公文書館)
	14時45分 ～15時45分	「ハタノヤ→ハンガヤ→ホドガヤ?ー二俣川の中世と榛谷御厨ー」 講師 渡辺 真治(神奈川県立公文書館)
	15時50分 ～16時50分	公文書館利用法(館内見学) ー記憶から記録への道ー

エ 生涯学習講座

県民に関心の高いテーマについて、当館の所蔵資料等を利用して解説することにより、歴史的公文書や古文書等への理解を深め、当館の利用促進につなげることを目的に開催した。

- ・会場 公文書館 大会議室(2階)
- ・受講者数 90人
- ・受講料 無料

開催日	時間	主題及び講師
5月27日(土)	13時30分～15時	「神奈川の地名」 講師 斎藤 達也(神奈川県立公文書館)
	15時～16時	バックヤードツアー(館内見学)

オ 夏休み小・中学生親子講座

小・中学生及びその保護者を対象として、当館の所蔵資料等を利用して分かりやすく解説することにより、当館への理解を深め、将来の利用者を育成することを目的に開催した。

- ・会場 公文書館 大会議室(2階)
- ・受講者数 31人(小学生27人、中学生1人、保護者3人)
- ・受講料 無料

開催日	時間	主題及び講師
8月22日(火)	14時～15時	紙芝居「マリア・ルス号ものがたり」 講師 寶田 陽子(神奈川県立公文書館)
	15時～16時	バックヤードツアー(館内見学)

(4) ホームページによる情報発信

公文書館のホームページでは、所蔵資料の検索や、展示・講座の案内のほか様々な公文書館事業を紹介しており、平成29年度のアクセス件数は約4万件あった。また、平成24年3月から公開した神奈川デジタルアーカイブについては、累計で郡役所文書など30万件余の画像を提供している。

(5) 公文書館事業の庁内説明会

ア 説明会開催の目的

公文書館への行政文書等の引渡しや選別が円滑に実施されること及び公文書館制度についての理解をより一層深めるため、各所属の文書事務主任、担当員等を対象に、県の全機関に対する説明会を開催した。

イ 開催の状況等

(ア) 会 場 公文書館 大会議室（2階）

(イ) 日程等

開 催 日	出席者数
第1回 5月16日（火）	67人
第2回 5月17日（水）	82人
第3回 5月18日（木）	46人
合 計	195人

前年度実績 215名

(ウ) 内 容

公文書館事業の説明

- ・公文書館の概要
- ・行政文書の引継ぎ・引渡し
- ・紙資料の保存
- ・行政文書等の選別
- ・公文書館資料の職員利用
- ・電子化された刊行物の取扱い
- ・公文書館の館内見学

4 利用状況

公文書館の収蔵資料の利用については、公文書館条例及び同施行規則に基づいて実施している。

(1) 資料の利用状況

ア 資料の閲覧

公文書館においては、閲覧室に開架されている行政刊行物、参考図書等は、自由に閲覧が可能である。

書庫内に収蔵されている資料の閲覧を希望する場合は、コンピュータによる検索、冊子目録、カード目録等により、資料を特定した上で、「公文書館資料閲覧申込書」に必要事項を記入し、受付に提出することにより閲覧することになる。

ただし、公文書館条例第5条及び同施行規則第4条に規定する「個人に関する情報その他の規則で定める情報が記録されている公文書館資料」については、閲覧を制限する場合があります。古文書・私文書資料の中の寄託・寄贈分については、同規則第4条第9号により寄託・寄贈者の意思による閲覧等の制限を行うものがある。

(ア) 平成 29 年度閲覧室入室者数

年 月	開館日数	閲覧室入室者数	1 日平均の閲覧室入室者数
平成 29 年 4 月	12 日	328 人	27.3 人／日
平成 29 年 5 月	23 日	888 人	38.6 人／日
平成 29 年 6 月	26 日	696 人	26.8 人／日
平成 29 年 7 月	25 日	1,034 人	41.4 人／日
平成 29 年 8 月	26 日	1,019 人	39.2 人／日
平成 29 年 9 月	24 日	777 人	32.4 人／日
平成 29 年 10 月	25 日	672 人	26.9 人／日
平成 29 年 11 月	24 日	924 人	38.5 人／日
平成 29 年 12 月	22 日	713 人	32.4 人／日
平成 30 年 1 月	22 日	702 人	31.9 人／日
平成 30 年 2 月	23 日	626 人	27.2 人／日
平成 30 年 3 月	26 日	599 人	23.0 人／日
合計 (平均)	278 日	8,978 人	32.3 人／日

(イ) 書庫内資料の利用状況

年 月	開館日数	書庫内資料閲覧者数	書庫内資料閲覧点数
平成 29 年 4 月	12 日	68 人	506 点
平成 29 年 5 月	23 日	85 人	455 点
平成 29 年 6 月	26 日	98 人	669 点
平成 29 年 7 月	25 日	84 人	551 点
平成 29 年 8 月	26 日	141 人	776 点
平成 29 年 9 月	24 日	83 人	9,649 点
平成 29 年 10 月	25 日	78 人	706 点
平成 29 年 11 月	24 日	97 人	536 点
平成 29 年 12 月	22 日	91 人	622 点
平成 30 年 1 月	22 日	87 人	571 点
平成 30 年 2 月	23 日	82 人	463 点
平成 30 年 3 月	26 日	74 人	1,719 点
合計	278 日	1,068 人	17,223 点
1 日平均		3.8 人	62.0 点

(ウ) 平成 29 年度資料区分別閲覧者数及び閲覧点数

年 月	合 計		公文書		古文書		マイクロフィルム		図書刊行物		その他	
	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点
平成 29 年 4 月	68	506	23	151	20	225	9	36	12	52	4	42
平成 29 年 5 月	85	455	24	113	22	177	5	15	23	43	11	107
平成 29 年 6 月	98	669	38	257	29	234	4	5	25	152	2	21
平成 29 年 7 月	84	551	27	185	36	245	7	33	13	86	1	2
平成 29 年 8 月	141	776	72	375	32	174	8	67	26	70	3	90
平成 29 年 9 月	83	9,649	21	146	35	392	5	14	19	48	3	9,049
平成 29 年 10 月	78	706	27	237	23	234	5	31	20	64	3	140
平成 29 年 11 月	97	536	36	244	33	207	5	8	19	61	4	16
平成 29 年 12 月	91	622	31	202	38	357	3	8	16	50	3	5
平成 30 年 1 月	87	571	35	207	31	280	2	2	17	78	2	4
平成 30 年 2 月	82	463	30	189	20	126	5	51	23	87	4	10
平成 30 年 3 月	74	1,719	27	147	25	1,508	2	3	18	57	2	4
合計	1,068	17,223	391	2,453	344	4,159	60	273	231	848	42	9,490

※ 資料区分の「その他」は、広報課の業務で撮影された写真その他資料である。

(エ) 主な利用資料は、以下のとおりである。

◎公文書 : 引揚者在外事実調査票、県議会委員会記録、土地改良区、県有財産管理関係、神奈川県公害対策審議会、学区制関係綴

◎古文書 : 小幡文書、喜連川文書、原文書、豊前氏古文書、三島神社文書、山吉家文書、足利直義御教書、関東管領上杉憲顕奉書等、伊東家文書、新井家文書、安藤家文書(片平、萱沼)、飯田家文書、池田家文書、石井達也家、石井元三郎家文書(沢井)、石川家文書、石渡家文書(荏田、海外)、井上家文書、岩崎家文書、内田家文書、円通寺文書、大矢家文書、神奈川宿本陣石井家文書、金子家文書、保土ヶ谷宿問屋荻部家文書、神原家文書、岸家文書、北村家文書、葛野重雄氏旧蔵資料、小塩家文書、小島家文書、酒井家文書、佐々木家文書、鈴木家文書(野島浦、若柳)、関口家文書、瀬戸家文書、曾根家文書、高橋家文書、武尾家文書、谷野家文書、泥亀新田文書、富田家文書、内藤家文書、長島家文書、中島家文書、中野家文書、幕末維新史料、浜田家文書、葉山家文書、原家文書、藤井家文書、間宮家文書、三樹家文書、溝口家文書、三田家文書、宮戸家文書、宮本家文書、矢野家文書、山口家文書、山口コレクション、山田家(八王子)、山本家文書、横須賀・三浦半島地域地籍図、吉村家文書、和田家文書、等々

◎マイクロフィルム : 手中家文書、土地宝典、山口匡一家文書

◎写 真 : 江川文庫、円覚寺、国文学資料館史料館、東京大学史料編纂所、東京大学法制史資料室、内閣文庫(国立公文書館)、外務省外交史料館、上杉家、箱根登山鉄道、八王子千人同心史料(東京富岡家・磯沼家)、横浜国立大学有光研究室、明治大学刑事博物館、山口県文書館、金沢文庫、川崎市立中原図書館、下田市立図書館、鶴岡八幡宮、貴船神社、雲頂庵、慶珊寺、建長寺、香雲寺、鎌倉光明寺、津久井光明寺、高野山後高室院、極楽寺、最乗寺、寿福寺、瑞泉寺、長念寺、東慶寺、宝戒寺、仏日庵、妙本寺、龍珠院、石井師士家、池谷睦郎家、石渡満子家、稲子家、今福家、岩沢家、岩本家、笠原家、梶家、勝俣家、軽部家、近藤家、佐野家、志村家、関家、高城家、田代家、堤家、藤間家、難波家、平川家、前田家、三嘴家、山口匡一家、横山家、吉浜家、若命家、和智家、中井町田中区、松田町虫沢区、等々

◎図書刊行物：土地宝典等土地の明細図関係、都市計画関係、職員録関係、郷土史・地誌関係、官報関係、路線価図、郡勢要覧、自治体史

イ 複写サービスの利用状況

公文書館の収蔵資料についての複写(電子複写、マイクロフィルム及びデジタルアーカイブの紙焼き)については、著作権法及び館長の定める範囲内において、実費により行っている。

平成29年度 複写サービス利用者数及び利用枚数

年 月	合 計		電子複写		マイクロフィルム		デジタルアーカイブ		写真撮影	
	人	枚	人	枚	人	枚	人	枚	人	枚
平成29年 4月	43	2,804	20	537	7	926	2	28	14	1,313
平成29年 5月	55	2,503	38	1,412	3	200	0	0	14	891
平成29年 6月	78	4,877	38	723	1	3	0	0	39	4,151
平成29年 7月	84	3,694	46	561	6	83	1	5	31	3,045
平成29年 8月	108	7,693	47	1,797	9	382	10	115	42	5,399
平成29年 9月	88	8,534	45	1,265	7	149	3	199	33	6,921
平成29年10月	78	10,429	40	5,980	8	269	3	24	27	4,156
平成29年11月	101	5,141	59	571	7	154	4	35	31	4,381
平成29年12月	87	4,365	54	1,515	4	103	2	5	27	2,742
平成30年 1月	69	3,795	30	1,416	3	91	3	9	33	2,279
平成30年 2月	72	4,779	40	2,193	6	358	2	7	24	2,221
平成30年 3月	67	6,697	33	1,250	2	9	4	15	28	5,423
合計	930	65,311	490	19,220	63	2,727	34	442	343	42,922
1日平均	3.3	234.9	1.8	69.1	0.2	9.8	0.1	1.6	1.2	154.4
1人平均	—	70.2	—	39.2	—	43.3	—	13.0	—	125.1

ウ レファレンスの状況

資料の利用及び所在に関する問い合わせを、閲覧室の受付において行っている。

レファレンスは直接公文書館に来館された場合以外に、電話及び文書（電子メール）による問い合わせについても、受け付けている。

平成 29 年度 レファレンス件数

合 計	口 頭	電 話	文 書	主な内容
件 1,684	件 1,153	件 511	件 20	<ul style="list-style-type: none"> 過去の法令、通達、県公報等及び行政刊行物の所在の確認 古文書及び古地図等の所蔵確認 土地区画整理及び土地宝典についての照会

エ 資料の館外貸出しの状況

公文書館においては、資料の館外貸出しは原則として行っていない。ただし、公文書館条例施行規則第 18 条に基づき、図書館、博物館、公民館、国、地方公共団体機関、学校、その他館長が適当と認めるものについて、承認申請により 30 日の範囲内（特に必要と認められるときは延長できる）で貸出しを承認している。

貸出の目的は、主として博物館等での展示、県業務の参考利用である。

平成 29 年度 資料の館外貸出しの状況（主なもの）

貸出先	利用目的	貸出資料
知事室	知事室分室の来客観賞用展示のため	土田邦彦氏寄付原画 「花ぐもり」、「蔵と火の見やぐらの見える風景」
県立病院課	七沢リハビリテーション病院脳血管センター委譲手続きのため	「昭和 48 年度 県有財産の取得」ほか
横浜開港資料館	企画展「銭湯と横浜－“ゆ”をめぐる人びと」に出陳するため	「大正 12～昭和 2 年 知事官舎、公設浴場 営繕管財課 第 1 号」ほか
横浜都市発展記念館	企画展「ウォーターフロント・シティ横浜 みなとみらいの誕生」に出陳するため	相模国足柄下郡岩村 土屋家文書「石材供給請負契約書」ほか
	企画展「伸びる鉄道、広がる道路」に出陳するため	横浜市及近郊平面図
相模原市立公文書館	企画展示「「軍都計画」と相模原」に出陳するため	「昭和 13 年 閣省稟申伺関係」、「昭和 14 年 相模原軍都建設連絡委員会書類」ほか
	企画展示「相模原における鉄道の開通と発展」に出陳するため	「明治 40 年 地理回議」ほか

平塚市博物館	特別展「四之宮前鳥神社ーその神輿と地域の信仰」に出陳するため	相模国大住郡大山 手中家文書「大堂社寺上屋敷御普請手控」ほか
埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展「上杉家の名刀と三十五腰」に出陳するため	細川勝元書状

オ 資料の掲載の状況

公文書館の収蔵資料の刊行物等への掲載については、利用目的等を明記した承認申請書または依頼文により、公文書館の撮影室等で自己の撮影機材により撮影したものの掲載を認めている。

平成 29 年度 資料掲載（放送）の状況（主なもの）

利用者	掲載資料（放送）名	利用資料
利水課	「相模ダム 70 年のあゆみ」	広報課撮影写真コレクション
歴史博物館	「県博講座」「近世古文書入門講座（中級編）」テキスト	相模国大住郡戸田村小塩家文書
横浜市歴史博物館	「江戸時代の三浦半島をゆく」	武蔵国久良岐郡野島浦鈴木家文書
横浜都市発展記念館	展示図録「ウォーターフロント・シティ横浜 みなとみらいの誕生」	相模国足柄下郡岩村 土屋家文書「石材供給請負契約書」ほか
相模原市立博物館	「相模原市史近代資料編」	「昭和 16 年 地方長官会議書類」ほか
	「津久井町史 文化遺産編」	津久井郡役所文書
平塚市博物館	「平塚市史」第 13 巻上 別編 寺社（1）	相模国大住郡戸田村小塩家文書「済口証文之事」
清川村教育委員会	「清川村史」（通史編）	広報課撮影写真コレクション
横浜検疫所	ホームページ「3 月 9 日一号 停留所の登録有形文化財への登録について」	「大正 12 ～昭和 2 年 病院、港務部 営繕管財課第 4 号」ほか
埼玉県立歴史と民俗の博物館	展示図録「上杉家の名刀と三十五腰」	「細川勝元書状」
清瀬市	「市史研究きよせ」第 3 号	山吉家文書「北条氏照書状」
市川市	「市川市史 第 3 巻 まつりごとの展開」	「永禄六年下総国鴻之台合戦図」
柏書房(株)	「幕末維新の古文書」	「島津斉彬書状」
戎光祥出版(株)	黒田基樹著「図説 戦国北条氏と合戦」	三島神社文書「伊勢（北条）家朱印状」
(株)碧水社	「週間ビジュアル戦国王」第 70・82 号	「永禄六年下総国鴻之台合戦図」、「小田原衆所領役帳」

湘友企画	「厚木・秦野・伊勢原の昭和」	広報課撮影写真コレクション
NHK	NHK Eテレ「ハートネットTV」	「昭和34年度 請願書綴」
	NHKBS「英雄たちの選択 秀吉VS“山城”スペシャル」	安西勝氏寄贈資料「相州津久井古城図」
太平洋少年倶楽部	NHKBS「聖火のキセキ」	「オリンピック東京大会国内聖火リレー神奈川県内リレー実施要項」ほか

(2) 施設の利用状況

ア 中間保管庫等の利用状況

中間保管庫に所蔵する簿冊文書（10年、30年保存で保存期間が満了していないもの）及びマイクロフィルムについて、主務課職員の利用に供している。

年 月	中間保管庫			マイクロフィルム		
	閲 覧	貸 出	計	当 館	本庁分室	計
平成29年 4月	0人	5人	5人	0人	11人	11人
平成29年 5月	0	2	2	0	11	11
平成29年 6月	1	5	6	0	12	12
平成29年 7月	2	4	6	1	13	14
平成29年 8月	2	5	7	0	10	10
平成29年 9月	0	2	2	0	12	12
平成29年10月	2	5	7	0	19	19
平成29年11月	2	1	3	0	10	10
平成29年12月	0	3	3	0	11	11
平成30年 1月	3	4	7	1	14	15
平成30年 2月	2	0	2	0	18	18
平成30年 3月	4	5	9	0	8	8
合 計	18人	41人	59人	2人	149人	151人

イ 会議室の利用状況

当館の会議室及び付属設備は有料で使用することができる。

平成 29 年度 会議室利用状況

年 月	大会議室		中会議室		小会議室	
	回 数	時 間	回 数	時 間	回 数	時 間
平成 29 年 4 月	4	19	3	14	7	19
平成 29 年 5 月	9	66	2	6	7	19
平成 29 年 6 月	8	68	6	31	10	48
平成 29 年 7 月	12	87	4	14	10	36
平成 29 年 8 月	8	69	2	12	9	59
平成 29 年 9 月	5	36	4	17	9	48
平成 29 年 10 月	4	22	5	21	7	20
平成 29 年 11 月	2	8	5	28	7	21
平成 29 年 12 月	2	10	3	8	6	16
平成 30 年 1 月	9	51	4	21	13	53
平成 30 年 2 月	10	41	6	28	15	51
平成 30 年 3 月	9	35	4	10	8	22
合 計	82	512	48	210	108	412

5 その他

(1) アーカイブズ実習生の受入

ア 目 的

大学でアーカイブズ学に関連する課程を専攻する学生を対象に、公文書館業務についての実習の場を提供した。

イ 日 時 平成 29 年 8 月 22 日 (火) ～ 9 月 9 日 (土) のうち 10 日間

ウ 受講者 5 人 (学習院大学大学院人文科学研究科 2 人、日本大学文理学部史学専攻、
帝京大学文学部日本文化学科及び専修大学文学部日本語学科)

エ 内 容 公文書館業務全般

(2) 国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲの受入

ア 目 的

国立公文書館の主催するアーカイブズ研修Ⅲの受講生に対して、神奈川県立公文書館の選別業務の概要を説明し、実習の場を提供した。

イ 日 時 平成 29 年 10 月 20 日 (金) 10 時～ 17 時

ウ 受講者 12 人

エ 内 容 公文書の評価選別の実習

(3) 人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ・カレッジの受入

ア 目 的

国文学研究資料館の主催するアーカイブズ・カレッジの受講生に対して、神奈川県立

公文書館の選別業務の概要を説明し、実習の場を提供した。

- イ 日 時 平成 29 年 8 月 2 日（水） 9 時 30 分～16 時 50 分
- ウ 受講者 31 人
- エ 内 容 公文書の評価選別の実習

(4) 大学による収蔵資料の見学実習受入

- ア 駒澤大学文学部歴史学科
見学者：86 人（教員等 6 人、学生 80 人）
見学資料：中世、近世、近現代資料及び歴史的公文書
日 時：平成 29 年 7 月 30 日（日）
- イ 和光大学教員資格科目「日本史概説」受講生
見学者：8 人（教員 1 人、学生 7 人）
見学内容：公文書館業務全般、書庫
日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）
- ウ 神奈川大学大学院歴史民族資料学研究科
見学者：4 人（教員 1 人、学生 3 人）
見学内容：公文書館業務全般、書庫
日 時：平成 29 年 11 月 26 日（日）
- エ 中央大学文学部「アーカイブズ概論」受講生
見学者：6 人（教員 1 人、学生 5 人）
見学内容：公文書館業務全般、書庫
日 時：平成 30 年 1 月 13 日（土）

(5) 中学生職場体験の受入

- ア 目 的
中学生が地域の事業所での職場体験を通じて勤労の意義、責任感の重要性などを学ぶため、体験学習を受け入れた。
- イ 日 時 平成 30 年 1 月 19 日（金） 9 時 30 分～15 時
- ウ 体験者 5 人（横浜市立旭中学校 2 年生）
- エ 体験内容 閲覧室図書整理、資料の出納、マイクロリーダープリンタの操作

(6) 神奈川県立公文書館見学会の開催

- ア 目 的
普段は公開していない書庫、選別室などバックヤードを見てもらうことにより、公文書館の役割や記録保存の重要性を訴えるため開催した。
- イ 日 時 平成 29 年 11 月 4 日（土）
10 時～11 時 15 分、13 時～14 時 15 分、15 時～16 時 15 分の 3 回実施
- ウ 参加者 計 11 人
- エ 体験内容 閲覧室、展示室、選別室、3 号書庫、5 号書庫及び古文書修復室

(7) 静岡県歴史的資料の選別収集に関する審査会委員への就任

- ア 目 的
静岡県が、歴史的資料の選別収集について必要な事項を審査するために設置する審査

会に、「他都道府県公文書館の職員のうちから経営管理部長が委嘱した者」として委嘱され、選別実務に携わる他県公文書館職員としての立場から意見を述べることにより、静岡県の選別業務の参考とすること。

イ 審査会開催日時等

第1回 平成29年11月24日（金）13時～16時

第2回 平成30年2月9日（金）10時30分～16時

会場はいずれも静岡県庁内法務文書課会議室

ウ 委員就任職員 薄井達雄

(8) 神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会

ア 設置目的・経過

県内市町村史編纂及び歴史資料保存利用に関する相互の連絡と協調を図り、もって市町村史編纂事業及び歴史資料保存利用事業の健全なる運営と諸資料及び情報の交換に寄与することを目的として、平成3年4月に発足した。（略称「神史協」）

当館開館に合わせて、会の事務局は県立文化資料館から県立公文書館に引き継がれた。

会長については、平成6年5月開催の総会において、県立図書館長から公文書館長への交替が承認された。

イ 平成29年度活動状況

(1) 総会の開催

・日 時 平成29年5月9日（火）13時30分～14時30分

・場 所 県立公文書館

(2) 理事会の開催

・第1回 平成29年6月23日（金）15時～16時30分

・第2回 平成30年3月8日（木）15時～16時

・場 所 県立公文書館

(3) 講演会の開催

(第1回)

・日 時 平成29年5月9日（火）14時30分～16時30分

・場 所 県立公文書館

・参 加 34人

・内 容 テーマ「歴史研究と公文書館」

講 師 大西 比呂志 氏（フェリス女学院大学教授）

(第2回)

・日 時 平成29年10月14日（土）14時～16時

・場 所 県立公文書館

・参 加 40人

・内 容 テーマ「海を渡った県民たちー海外引揚から見たアジアと神奈川ー」

講 師 加藤 聖文 氏（国文学研究資料館准教授）

(4) 研修会の実施

(第1回)

・日 時 平成29年11月29日（水）14時～16時 参加24人

・場 所 県立公文書館

- ・内 容 「資料の効率的な保全・整理・収納・管理・活用について」
- ・報告者 児島 聡 氏 (TRCC 東京修復保全センター)

(第2回)

- ・日 時 平成30年1月31日(水) 14時～16時 参加15人
- ・場 所 たばこと塩の博物館
- ・内 容 視察研修(施設及び機能の説明と見学)

(5) 研究会の実施

(第1回) 平成29年9月26日(火) 13時30分～16時30分 参加21人

場 所 横浜情報文化センター

内 容 「録音資料の保存」

報告者 児玉 優子 氏 (放送番組センター)

(第2回) 平成29年12月13日(水) 14時～16時30分 参加22人

場 所 相模原市立公文書館

内 容 「増え続ける公文書の保存と公開への対応について」

報告者 飯田 生馬 氏 (相模原市立公文書館)

(6) 会報の発行

- ・第44号 平成30年3月発行 800部印刷 A4判 12頁

(9) 主な来館団体(来館日順)

神奈川県立総合教育センター

横浜市立中尾小学校3年生

鳥取県立公文書館

淑徳大学アーカイブズ

千葉県文書館

静岡県法務文書課

松田町文化財保護委員会

横浜国立大学教育学部

広島市公文書館

関東弁護士連合会「情報公開と公文書管理」シンポジウム実行委員会

悠遊会

台湾国史館

III 参 考 资 料

1 主な寄贈資料

番号	資 料 名 (主な内容)	点 数
1	大谷久雄氏旧蔵資料 (厚木市上荻野 萬朝報等新聞)	15
2	甘利正氏旧蔵資料 (厚木市山際 明治7年小学校卒業証書)	2
3	吉田俊介氏旧蔵資料 (東京都品川区 淘綾郡役所関係資料)	5
4	土屋松五郎氏旧蔵資料 (川崎市幸区 生麦事件等史蹟写真)	15
5	高橋万吉氏旧蔵資料 (川崎市多摩区 天草軍記等和書)	19
6	米田光郷氏旧蔵資料 (三浦市三崎 海南明神略縁起写真)	37
7	藤巻宗太郎氏旧蔵資料 (横浜市西区 地券)	7
8	佐藤富吉氏旧蔵資料 (横浜市金沢区 天保10年都往来)	11
9	相模国大住郡池端村加藤家文書 (伊勢原市池端 名主関係資料)	55
10	武蔵国橘樹郡生麦村関口家文書 (横浜市鶴見区 名主関係資料)	1,755
11	武蔵国橘樹郡神奈川宿本陣石井家文書 (東京都世田谷区 本陣・名主資料)	1,063
12	伏見芳太郎氏旧蔵資料 (横浜市金沢区 幕臣旗本伏見氏史料)	2
13	青木茂氏旧蔵資料 (東京都豊島区 湯治地取)	5
14	田中兵五郎氏旧蔵資料 (横浜市旭区 香河氏史料)	15
15	山口八十八氏コレクション (横浜市港北区 幕末維新时期名士書簡)	253
16	武蔵国橘樹郡神大寺村島田家文書 (横浜市神奈川区 名主関係資料)	155
17	斎藤猪一郎氏旧蔵資料 (足柄上郡開成町 近世の証書類)	14
18	武蔵国橘樹郡神大寺村北村家文書 (横浜市神奈川区 名主関係資料)	825
19	専修大学図書館古典籍影印叢刊資料 (神奈川県教育委員会 藤原家隆筆源氏系図)	10
20	鈴木一雄氏収集古文書 (横浜市南区 近世証書類、神奈川県布達)	54
21	相模国大住郡戸田村小塩家文書 (厚木市戸田 名主関係資料)	1,437
22	小池駿一日記 (神中鉄道、大雄山鉄道に関係した鉄道技師の日記)	71
23	小澤家文書 (明治初期の高座郡杉久保村〔海老名市〕の反別取調野帳)	27
24	野村家文書 (横浜市の用品商の戦前・戦中資料)	33
25	中島家文書 (相模原市緑区 明治以降の教育関係資料)	326
26	岩澤愿彦氏旧蔵資料 (増補追加家忠日記、元和日記等中世・近世資料)	119
27	相模国津久井郡千木良村溝口家文書 (相模原市緑区 千木良村地方・戸長関係資料 漢学者溝口桂巖資料)	753
28	出口義明氏旧蔵資料 (大正二年神奈川県写真帳)	3
29	葛野重雄氏資料 (横浜市の学童疎開関係資料)	392
30	武蔵国橘樹郡上作延村 三田家文書 (川崎市高津区 名主関係資料)	935
31	安西勝氏旧蔵資料 (相州津久井古城図)	3
32	武蔵国久良岐郡野島浦鈴木家文書 (横浜市金沢区 名主関係資料)	2,025
33	小菅猛雄氏旧蔵資料 (三浦市南下浦 土地関係資料)	181
34	池津珍蔵関係資料 (幕末横浜開港期資料)	330
35	西尾家文書 (徳川吉宗、家斉御内書)	21
36	宮治家文書 (藤沢市 土地関係資料)	611
37	荒波孫四郎家旧蔵絵図資料 (横浜市保土ヶ谷区)	29
38	稲木静恵氏旧蔵資料 (軍艦榛名航海記録、関東大震災記録写真刊行物)	21
39	野澤繁氏旧蔵資料 (江戸時代の字書)	3
40	内田昭光氏旧蔵資料 (小田原市根府川 関東大震災調査資料)	9
41	野口豊氏旧蔵資料 (富士講関係資料)	4

42	山内英司氏旧蔵資料（徳川綱吉朱印状写間部詮房宛）	3
43	大磯宿小頭助左衛門関係文書	16
44	新堀豊彦氏・典彦氏旧蔵資料（大江卓書幅）	1
45	佐野クミ子氏旧蔵資料（飯田九一氏作「水郷」）	1
46	清水家資料	1,094
47	長山家文書（高木家旧蔵）	5
48	横須賀市秋谷奈良谷氏旧蔵資料（明治初期の秋谷地域教育関連資料）	48
49	相模国久良岐郡松本村武川家文書（稲荷講の当番名簿等）	6
50	矢澤邦治氏旧蔵資料（江戸時代の頼母子講加入連名帳）	1
51	佐藤嘉明氏旧蔵資料（浅野総一郎の書幅ほか）	5
52	富濱利郎氏旧蔵資料（衣料切符、絵葉書、ポスター類）	381
53	谷口義治氏資料（平塚農学校、相原農蚕学校関係資料）	350
54	相模国足柄上郡西大井村地図（明治初期作成の区分地図）	17
55	相模国三浦郡上宮田村須原家文書（江戸期漁業、土地売買関係資料）	25
	合 計	13,603

※番号1から20番までは県史編集室・県立文化資料館時代に寄贈を受けた資料

2 寄託資料

番号	資 料 名（所在地・主な内容）	点 数
1	相模国陶綾郡山西村 宮戸家文書（中郡二宮町山西 名主関係資料）	456
2	武蔵国橋樹郡篠原村文書（横浜市港北区 名主関係資料） 相模国大住郡小稲葉村文書（伊勢原市小稲葉 名主関係資料）	11
3	相模国愛甲郡三田村 曾根家文書（厚木市三田 名主関係資料）	342
4	相模国足柄上郡金子村 間宮家文書（足柄上郡大井町金子 名主関係資料）	1,512
5	相模国三浦郡八幡久里浜村 長島家文書（横須賀市久里浜 名主関係資料）	126
6	相模国大住郡石田村 石井家文書（伊勢原市石田 名主関係資料）	5,233
7	武蔵国都筑郡二俣川村善部 和田家文書（横浜市旭区 名主関係資料）	211
8	武蔵国都筑郡上白根村 高橋家文書（横浜市旭区 名主関係資料）	2,464
9	相模国足柄上郡萱沼村 安藤家文書（足柄上郡松田町寄 名主関係資料）	1,516
10	武蔵国橋樹郡生麦村 関口家文書（横浜市鶴見区 名主関係資料）	2
11	武蔵国都筑郡片平村 安藤家文書（川崎市麻生区 名主関係資料）	1,836
12	相模国足柄上郡岡野村 内藤家文書（足柄上郡開成町岡野 名主関係資料）	565
13	相模国津久井郡三ヶ木村 三樹家文書（相模原市津久井町 名主関係資料）	268
14	相模国大住郡伊勢原村 山田家文書（伊勢原市伊勢原 近世地方資料）	5
15	相模国三浦郡二町谷村 石渡家文書（三浦市海外町 名主関係資料）	322
16	相模国大住郡白根村 山本家文書（伊勢原市白根 名主関係資料）	318
17	武蔵国都筑郡上川井村 中野家文書（横浜市旭区 名主関係資料）	590
18	相模国愛甲郡飯山村 石川家文書（厚木市飯山 名主関係資料）	4,273
19	相模国愛甲郡飯山村 森家文書（厚木市飯山 近世地方資料）	154
20	相模国愛甲郡田代町 大矢家文書（愛甲郡愛川町田代 名主関係資料）	3,994
21	相模国足柄上郡皆瀬川村 井上家文書（足柄上郡山北町皆瀬川 名主関係資料）	3,635
22	相模国愛甲郡妻田村 長野家文書（厚木市妻田 名主関係資料）	464

23	相模国愛甲郡及川村 桐生家文書（厚木市及川 及川村、愛川村役場関係資料）	1, 195
24	相模国愛甲郡林村 成瀬家文書（厚木市林 名主関係資料）	438
25	松田家文書（小田原北条氏家臣）（戦国期〔北条氏直判物〕・近世資料）	3
26	相模国愛甲郡上荻野村 岸家文書（厚木市上荻野 土地関係資料）	4, 553
27	相模国足柄上郡金井島村 瀬戸家文書（足柄上郡開成町金井島 名主関係資料）	6, 249
28	相模国足柄上郡金手村 酒井家文書（足柄上郡大井町金子 名主関係資料）	314
29	相模国足柄上郡上大井村 三島神社文書（足柄上郡大井町上大井 神社関係資料）	159
30	相模国大住郡大山 手中家文書（伊勢原市大山 宮大工・神輿関係資料）	5, 555
31	相模国鎌倉郡瀬谷村 岩崎家文書（横浜市瀬谷区 名主関係資料）	694
32	武蔵国橘樹郡北綱島村 飯田家文書（横浜市港北区 名主関係資料）	3, 807
33	相模国三浦郡下山口村 沼田家文書（三浦郡葉山町 下山口村絵図等近世資料）	115
34	相模国三浦郡堀内村 葉山家文書（三浦郡葉山町 名主関係資料、醤油醸造関係資料）	3, 048
35	相模国足柄上郡谷岬村 武尾家文書（足柄上郡山北町谷ヶ 名主関係資料）	12, 903
36	相模国津久井郡牧野村 神原家文書（相模原市緑区 名主関係資料）	1, 430
37	相模国津久井郡牧野村馬本 佐々木家文書（相模原市緑区 名主、戸長関係資料）	1, 983
38	相模国津久井郡佐野川村 吉村家文書（相模原市緑区 戸長役場関係資料）	500
39	亀谷家文書 幕末の儒学者亀谷省軒関係資料（織田、豊臣、徳川家系謄写）	44
40	本間家文書（大塔宮護良親王墨跡関係資料）	7
41	相模国高座郡蓼川 大澤家文書（綾瀬市蓼川の領主、幕臣大澤家関係資料）	281
42	武蔵国久良岐郡中里村 萩原家文書（横浜市磯子区 名主関係資料）	99
43	相模国足柄上郡篠窪村 小島家文書（足柄上郡大井町篠窪 名主関係資料）	1, 305
44	武蔵国都筑郡池辺村 原家文書（横浜市都筑区 名主、戸長役場関係資料）	2, 162
45	武蔵国久良岐郡松本村 金子家文書（横浜市港南区 名主関係資料）	1, 820
46	相模国津久井郡沢井村 石井家文書（相模原市緑区 名主関係資料）	2, 463
47	相模国足柄下郡吉浜村 鈴木家文書（足柄下郡湯河原町吉浜 神職関係資料）	1, 303
48	足柄下郡湯河原町宮上 八亀家文書（温泉経営、愛国婦人会関係資料）	858
49	足柄上郡雑色村 雑色家文書（東久世通禧書幅、県布達、太政官布達）	275
50	相模国津久井郡沢井村 石井家文書（相模原市緑区 名主関係資料）	1, 900
51	甲斐国巨摩郡大蔵村 津金家文書（名主、戸長関係資料）	18
52	武蔵国久良岐郡松本村 松本家文書（横浜市港南区 修験道、寺子屋関係資料）	2, 335
53	相模国足柄上郡金子村 間宮家文書（足柄上郡大井町金子 名主関係資料等）	8, 613
54	相模国三浦郡木古庭村 伊東家文書（三浦郡葉山町 名主、戸長関係資料）	3, 152
55	相模国大住郡南金目村 藤間家文書（平塚市南金目 名主関係資料等）	1, 908
56	相模国足柄下郡鍛冶屋村 柏木家文書（足柄下郡湯河原町鍛冶屋 名主関係資料）	1, 071
57	三浦郡葉山村石井家農事日誌（明治30年から昭和27年の農事日誌）	52
58	三浦郡三戸村 前田家文書（三浦市初声町 名主・戸長関係資料）	613
59	都筑郡下川井村 桜井家文書（横浜市旭区 名主・戸長関係資料）	3, 723
60	三浦郡下山口村 沼田義則家文書（三浦郡葉山町 名主・戸長関係資料）	1, 106
61	久良岐郡中里村 萩原家教育関係資料（横浜市磯子区 教員資料）	239
62	鎌倉郡腰越津村関係資料・齊藤達也氏収集（鎌倉市 村議会や漁業組合資料）	57
63	高座郡淵野辺村 細谷家文書（相模原市中央区 名主・戸長関係資料）	239
64	北条家朱印状 西6月20日 依田下総守・同大膳宛	1
65	横須賀市西浦賀 加藤家文書（横須賀市西浦賀 商家関係資料）	10, 000
	合 計	116, 887

3 神奈川県立公文書館条例

(平成5年神奈川県条例第24号)

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立公文書館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 公文書その他の記録（以下「公文書等」という。）で歴史資料として重要なものを収集し、保存し、及び閲覧に供し、並びにこれに関連する調査研究を行うとともに、県民に文化活動の場を提供するため、神奈川県立公文書館（以下「公文書館」という。）を横浜市旭区中尾一丁目6番1号に設置する。

(公文書等の引渡し)

第3条 県の機関（知事、議会、公営企業管理者、教育委員会、選挙管理委員会、人事委員会、監査委員、労働委員会、収用委員会、海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会をいう。）及び県が設立した地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。）は、その保存する公文書等が現用でなくなったときは、速やかに当該公文書等を公文書館に引き渡さなければならない。

(公文書等の選別、保存及び廃棄)

第4条 知事は、前条の規定により引き渡された公文書等について、知事が別に定める基準により、歴史資料として重要な公文書等を選別し、保存しなければならない。

2 知事は、前条の規定により引き渡された公文書等のうち、前項の規定により保存する公文書等以外の公文書等を、確実に、かつ、速やかに廃棄しなければならない。

(閲覧の制限)

第5条 知事は、公文書館に保存されている公文書等（以下「公文書館資料」という。）のうち、個人に関する情報その他の規則で定める情報（以下「個人に関する情報等」という。）が記録されている公文書館資料について閲覧を制限することができる。

2 知事は、公文書館資料に個人に関する情報等とそれ以外の情報とが記録されている場合において、当該個人に関する情報等とそれ以外の情報とを容易に、かつ、公文書館資料の閲覧を求める趣旨を失わない程度に合理的に分離することができるときは、前項の規定にかかわらず、当該個人に関する情報等が記録されている部分を除き、当該公文書館資料を閲覧に供さなければならない。

(施設及び設備の利用)

第6条 別表に掲げる公文書館の施設及び設備を利用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 知事は、前項の規定による承認の申請があった場合において、当該申請に係る利用をさせることが次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、承認を与えないことができる。

(1) 公文書館における秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあるとき。

(2) 公文書館資料、施設及び設備を損傷するおそれがあるとき。

(3) その他公文書館の管理上支障があるとき。

(使用料)

第7条 前条第1項の規定により公文書館の施設及び設備の利用の承認を受けた者は、別表に定める額の使用料を納めなければならない。

2 前項の使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第8条 前条第1項の規定にかかわらず、知事は、次の各号のいずれかに該当する場合には、使

用料を減免することができる。

(1) 国、県又は県内の市町村の機関が公文書等に関する行事に利用するとき。

(2) その他知事が特に必要と認めるとき。

(使用料の不還付)

第9条 既に納付された使用料は、還付しない。ただし、知事が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(入館の制限)

第10条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者には、公文書館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。

(1) 他人に危害又は迷惑を及ぼすおそれのある者

(2) その他公文書館の管理上支障があると認められる者

(利用承認の取消し等)

第11条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者が同条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき又は知事が必要と認めたときは、同条第1項の承認を取り消し、又は施設及び設備の利用を中止させることができる。

(委任)

第12条 この条例に定めるもののほか、公文書館の管理等に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成5年11月1日から施行する。

この条例は、平成8年10月21日から施行する。(平成8年神奈川県条例第35号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。(抄)(平成9年神奈川県条例第2号)

(会館等の使用料に関する経過措置)

3 この条例の施行の際現に会館等の利用の申込みを受理しているものに係る使用料については、第2条から第7条まで、第9条、第22条、第27条及び第28条の規定による改正後の各条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成16年11月30日条例第61号)

この条例は、平成17年1月1日から施行する。

附 則 (平成16年12月28日条例第80号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。(後略)

附 則 (平成21年12月28日条例第89号抄)

(施行期日)

1 この条例は、地方独立行政法人神奈川県立病院機構(以下「病院機構」という。)の成立の日から施行する。(後略)

附 則 (平成26年3月25日条例第7号)

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。(後略)

(神奈川県立公文書館等の使用料に関する経過措置)

2 この条例の施行の際現に神奈川県公文書館の利用の申込みを受理しているものに係る使用料については、この条例による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表（第6条、第7条関係）

1 会議室使用料

区 分	使 用 料 の 額	
	午前9時から午後5時まで	午後5時から午後9時まで
大 会 議 室	1時間につき 1,210 円	1時間につき 1,380 円
中 会 議 室	同 590 円	同 770 円
小 会 議 室	同 470 円	同 650 円

2 大会議室設備使用料

種 別	単 位	使用料の額
ビデオシステム	1 回	2,830 円
16 ミリ映画映写機	同	2,830 円
8 ミリ映画映写機	同	2,830 円
ワイヤレスマイクロフォン	1 本 1 回	1,530 円
カセットレコーダー	1 台 1 回	1,290 円
資料映写システム	1 回	1,290 円
スライド映写機	同	1,290 円

備考

- 1 会議室の利用時間が1時間に満たないとき又はこれに1時間未満の端数の時間を生じたときは、その満たない時間又はその端数の時間を1時間として計算する。
- 2 1回とは、継続する4時間以内の利用をいう。
- 3 大会議室設備の利用時間が継続して4時間を超える場合のその超える利用時間に係る使用料は、その超える利用1時間につき、1回の使用料の額に4分の1を乗じて得た額とする。この場合において、その超える利用時間が1時間に満たないとき又はこれに1時間未満の端数の時間を生じたときは、その満たない時間又はその端数の時間を1時間として計算する。

4 神奈川県立公文書館条例施行規則

(平成5年10月神奈川県規則第86号)

(事務の委任及び専決)

第1条 神奈川県立公文書館条例(平成5年神奈川県条例第24号。以下「条例」という。)に基づく次に掲げる事務は、神奈川県立公文書館(以下「公文書館」という。)の長(以下「館長」という。)に委任する。

- (1) 条例第3条の規定により公文書等の引渡しを受けること。
- (2) 条例第4条第1項の規定により公文書等(保存期間が1年と定められていた公文書等及び常時使用する行政文書(神奈川県行政文書管理規則(平成12年神奈川県規則第15号)第2条第1号に規定する行政文書をいう。次項において同じ。)として必要な期間保管されていた公文書等を除く。次号において同じ。)を選別すること。
- (3) 条例第4条第2項の規定により公文書等を廃棄すること。
- (4) 条例第5条の規定により公文書等の閲覧を制限すること。
- (5) 条例第6条の規定により会議室(大会議室設備を含む。以下同じ。)の利用を承認すること。
- (6) 条例第8条の規定により使用料を減免すること。
- (7) 条例第9条ただし書の規定により使用料を還付すること。
- (8) 条例第10条の規定により入館を拒否し、及び退館を命ずること。
- (9) 条例第11条の規定により会議室の利用の承認を取り消し、及び利用を中止させること。

2 条例第4条第1項及び第2項の規定により公文書等(保存期間が1年と定められていた公文書等及び常時使用する行政文書として必要な期間保管されていた公文書等に限る。次項において同じ。)の選別及び廃棄を行うことを当該公文書等に係る事務を所掌する出先機関の長(神奈川県職員の職の設置等に関する規則(昭和33年神奈川県規則第53号)第5条第1項に規定する所長並びに同規則第6条第1項に規定する支所長、地区事務所長及び試験場長をいう。)に委任する。

3 室長及び課長(神奈川県職員の職の設置等に関する規則第3条第1項に規定する室長及び課長をいう。)は、その所掌する事務に係る公文書等について、条例第4条第1項及び第2項の規定による選別及び廃棄を専決するものとする。

(休館日)

第2条 公文書館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(その日が月曜日に当たるときは、その翌日)
- (3) 1月2日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 前項に規定する休館日のほか、閲覧室にあっては4月1日から同月15日までを休館日とする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長は、公文書館の施設及び設備(以下「施設等」という。)の修理その他の理由により必要があると認めるときは、休館日を臨時に変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(開館時間)

第3条 公文書館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、会議室にあっては、午後9時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長は、必要があると認められるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(閲覧を制限することができる公文書館資料に記載されている情報)

第4条 条例第5条第1項に規定する規則で定める情報は、次に掲げる情報とする。

- (1) 個人に関する情報（自己に関する情報及び事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であって、特定の個人が識別され、若しくは識別され得るもの又は特定の個人を識別することはできないが、閲覧に供することにより、個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。
 - ア 法令又は条例（以下「法令等」という。）の規定により何人にも閲覧が認められている情報
 - イ 慣行として公にされ、又は公にすることが予定されている情報
 - ウ 公務員等（国家公務員法（昭和22年法律第120号）第2条第1項に規定する国家公務員（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第4項に規定する行政執行法人の役員及び職員を除く。）、独立行政法人等（独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下この条において同じ。）の役員及び職員、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第2条に規定する地方公務員並びに地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。以下この条において同じ。）の役員及び職員をいう。）の職務の遂行に関する情報のうち、当該公務員の職及び当該職務遂行の内容に係る情報
 - エ 人の生命、身体、健康、生活又は財産を保護するため、閲覧に供することが必要であると認められる情報
- (2) 法人その他の団体（国、独立行政法人等、地方公共団体及び地方独立行政法人を除く。以下「法人等」という。）に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報であって、閲覧に供することにより当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの。ただし、人の生命、身体、健康、生活又は財産を保護するため、閲覧に供することが必要であると認められる情報を除く。
- (3) 県の機関及び県が設立した地方独立行政法人（以下この条において「県の機関等」という。）の内部若しくは相互間又は県の機関等と国若しくは他の地方公共団体（以下「国等」という。）の機関、独立行政法人等若しくは地方独立行政法人（県が設立したものを除く。）との間における審議、検討又は協議に関する情報であって、閲覧に供することにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に県民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え、若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの
- (4) 県の機関、国等の機関又は独立行政法人等が行う事務又は事業に関する情報であって、閲覧に供することにより、次に掲げるおそれその他当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの
 - ア 監査、検査、取締り又は試験に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれ又は違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を困難にするおそれ
 - イ 契約、交渉又は争訟に係る事務に関し、県、国等、独立行政法人等又は地方独立行政法人の財産上の利益又は当事者としての地位を不当に害するおそれ
 - ウ 調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ
 - エ 人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ
 - オ 県若しくは国等が経営する企業又は独立行政法人等に係る事業に関し、その企業経営上の正当な利益を害するおそれ
- (5) 県の機関等の要請を受けて、公にしないと条件で任意に提供された情報であって、個人

又は法人等における通例として公にしないこととされているものその他の当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの。ただし、人の生命、身体、健康、生活又は財産を保護するため、閲覧に供することが必要であると認められる情報を除く。

- (6) 犯罪の予防、犯罪の捜査、個人の生命、身体及び財産の保護その他公共の安全の確保のため、閲覧に供しないことが必要と認められる情報
- (7) 法令等の規定又は地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の9第1項の規定による基準その他県の機関等が法律上従う義務を有する国の機関の指示により、閲覧に供することができないとされている情報
- (8) 自己に関する情報のうち個人の指導、診断、評価、選考等に関する情報であって、閲覧に供することにより、当該指導、診断、評価、選考等に著しい支障が生ずるおそれがあると認められるもの
- (9) 公文書館が県民等から取得した公文書館資料に記録されている情報（第5号本文に掲げるものを除く。）であって、閲覧に供しない旨の条件が付されているもの
(公文書館資料の閲覧の手続等)

第5条 公文書館資料の閲覧をしようとする者は、公文書館資料閲覧申込書（第1号様式）により館長に申し込まなければならない。ただし、閲覧室の書架に置かれている公文書館資料については、この限りでない。

- 2 館長は、前項の規定による申込みがあったときは、文書の処理済み年月日の属する年度の翌年度の4月1日から起算して30年が経過していない公文書館資料（以下「30年未経過公文書等」という。）にあつては当該公文書館資料の閲覧の申込みがあった日から起算して10日以内に、30年未経過公文書等以外の公文書館資料にあつては速やかに、当該公文書館資料が条例第5条第1項に該当するか否かを確認しなければならない。ただし、当該期間内に、又は閲覧の申込みがあったときに速やかに確認することができないことについてやむを得ない理由があるときは、その理由がやんだ後、確認することができる。
- 3 館長は、第1項の申込みに係る公文書館資料が前項の確認により条例第5条第1項に該当する場合には、閲覧制限条項該当通知書（第2号様式）により、閲覧できない旨を申込者に通知しなければならない。

(公文書館資料の閲覧)

第6条 館長は、前条第2項の確認により条例第5条第1項に該当しないときは、速やかに当該公文書館資料を閲覧に供さなければならない。

- 2 閲覧の申込みに係る公文書館資料の閲覧をさせることにより、当該公文書館資料を汚損し、破損するおそれがあると認められるときその他相当の理由があるときは、前項の規定にかかわらず、当該公文書館資料の閲覧に代えて、当該公文書館資料を複写したものを閲覧に供することができる。
- 3 公文書館資料の閲覧は、閲覧室においてしなければならない。

(公文書館資料の補正説明の添付)

第7条 館長は、公文書館資料の閲覧者等から資料中の情報に誤りがあるとの申出を受けた場合は、調査の上、必要があると認めるときは、当該資料に補正説明を添付するものとする。

(会議室の利用の申込み)

第8条 条例第6条第1項の規定により会議室の利用の承認を受けようとする者は、利用しようとする日の6箇月前の日の属する月の初日から利用しようとする日の前々日まで利用申込書（第3号様式）により館長に申し込まなければならない。ただし、館長が公文書館の管理上特

に支障がないと認めるときは、当該期間後であっても申し込むことができる。

(会議室の利用承認等の通知)

第9条 館長は、前条の規定による申込みがあった場合において、その利用を承認するとき利用承認書(第4号様式)を申込者に通知し、その利用を承認しないときはその旨を申込者に通知しなければならない。

(使用料の納付等)

第10条 前条の規定による承認の通知を受けた者は、館長が指定する期日までに使用料を納付しなければならない。

2 館長は、前項の規定による使用料の納付がないときは、その利用の承認を取り消すものとする。

(利用者が守るべき事項)

第11条 公文書館を利用する者(その者の利用目的に応じて入館した者を含む。以下「利用者」という。)は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 利用目的以外の目的に施設等を利用しないこと。
- (2) 公文書館資料を汚損し、又は破損しないこと。
- (3) 公文書館資料、展示物、付属設備等を公文書館外に持ち出さないこと。
- (4) 許可なく壁、柱、窓、扉等にポスター、看板、旗、懸垂幕その他これらに類するものを掲げ、若しくははり付け、文字等を書き、又はくぎ類を打たないこと。
- (5) 許可なく危険若しくは不潔な物品又は動物を持ち込まないこと。
- (6) 許可なく火気を使用し、又は特別な設備をしないこと。
- (7) 定員を超えて会議室に入場させないこと。
- (8) 定められた場所以外の場所で飲食し、又は喫煙しないこと。
- (9) 許可なく寄附金の募集、物品の販売等を行わないこと。
- (10) 騒音、怒声等を発し、又は暴力を用いる等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (11) 関係職員の指示に従うこと。

(責任者の届出等)

第12条 会議室の利用の承認を受けた者は、あらかじめ利用に係る会議室内の秩序を保持するために必要な責任者を定め、館長に届け出なければならない。

2 前項の規定による責任者は、会議室の利用を終了したとき(利用中止の命令により利用を中止したときを含む。)は、利用した会議室を原状に復し、その旨を関係職員に報告しなければならない。

(管理上の立入り)

第13条 会議室を利用する者は、関係職員が管理上の都合により利用に係る会議室への立入りを要求したときは、拒むことができない。

(使用料の減免)

第14条 次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を免除する。

- (1) 国、県又は市町村の機関が公文書等の利用の促進及び公文書等に関する調査研究を目的とした行事に利用するとき。
 - (2) その他館長が特に必要と認めるとき。
- 2 次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を条例別表に定める額の2分の1の額に減額する。
- (1) 公共的団体が公文書等の利用の促進及び公文書等に関する調査研究を目的とした行事に利用するとき。

(2) その他館長が必要と認めるとき。

(使用料の減免申請)

第 15 条 使用料の減免を受けようとする者は、第 8 条による利用の申込みの際に減免申請書（第 5 号様式）により館長に申請しなければならない。

(使用料減免承認等の通知)

第 16 条 館長は、前条の規定による申請があった場合において、その減免を承認するときは減免承認書（第 6 号様式）を申請者に通知し、その減免を承認しないときはその旨を申請者に通知しなければならない。

(使用料の還付の手続)

第 17 条 条例第 9 条ただし書の規定による使用料の還付を受けようとする者は、その旨及び利用することができない理由を記載した書面に利用承認書を添えて、館長に提出しなければならない。

(公文書館資料の館外貸出しの承認等)

第 18 条 館長は、次に掲げるものに、公文書館資料の館外貸出しをすることができる。

- (1) 公文書館法（昭和 62 年法律第 115 号）第 4 条第 1 項に規定する公文書館
- (2) 国立の図書館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 2 条第 1 項に規定する図書館
- (3) 国立の博物館、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同第 29 条の規定により博物館に相当する施設として指定された施設
- (4) 社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 21 条に規定する公民館
- (5) 国又は地方公共団体の機関
- (6) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校
- (7) その他館長が適当と認めるもの

2 公文書館資料の館外貸出しを受けようとするものは、館長の承認を受けなければならない。

3 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出し承認申請書（第 7 号様式）を提出し、館外貸出し承認書（第 8 号様式）の交付を受けなければならない。

(館外貸出し期間)

第 19 条 公文書館資料の館外貸出し期間は、30 日以内とする。ただし、館長は、特に必要があると認められるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出し期間は、公文書館が当該公文書館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 館長は、館務の都合により必要があるときは、公文書館資料の館外貸出し期間中であっても、当該公文書館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした公文書館資料の利用方法)

第 20 条 公文書館資料の館外貸出しを受けたものは、当該公文書館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(損傷等の届出)

第 21 条 利用者又は公文書館資料の館外貸出しを受けているものは、施設等又は公文書館資料を損傷し、又は滅失したときは、直ちにその旨及び理由を公文書館資料等損傷（滅失）届出書（第 9 号様式）により館長に届け出て、その指示を受けなければならない。

(複写)

第 22 条 公文書館資料の複写を希望する者は、館長が別に定める範囲内で複写を受けることができる。

(古文書等の寄贈及び寄託)

第23条 館長は、古文書等の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 寄託を受けた古文書等の管理については、神奈川県が所有する公文書館資料に準じて行う。
ただし、寄託者の承諾がある場合のほかは、複写及び館外貸出しを行わない。

(公文書館資料の目録の整備)

第24条 館長は、その定めるところにより、公文書館資料の目録を整備し、利用者の閲覧に供するものとする。

(実施細目)

第25条 この規則に定める者のほか、公文書館の管理及び運営に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

この規則は、平成5年11月1日から施行する。

附 則 (平成7年規則第53号)

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則 (平成10年規則第59号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成12年規則第111号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成16年規則第32号)

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年規則第130号)

この規則は、平成17年7月1日から施行する。

附 則 (平成18年規則第34号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年規則第83号)

この規則は、平成19年6月1日から施行する。ただし、第4条第1号ウの改正規定は、平成19年10月1日から施行する。

附 則 (平成20年3月31日規則第10号抄)

(施行期日)

1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年12月28日規則第100号)

この規則は、地方独立行政法人神奈川県立病院機構の成立の日から施行する。

附 則 (平成26年3月28日規則第41号)

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則 (平成27年3月27日規則第27号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年3月29日規則第25号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成29年3月31日規則第38号)

この規則は、地方独立行政法人神奈川県産業技術総合研究所の成立の日から施行する。

(様式略)

5 神奈川県立公文書館公文書等選別基準

(平成5年神奈川県告示第929号)

神奈川県立公文書館条例（平成5年神奈川県条例第24号）第4条第1項の規定に基づき、神奈川県立公文書館（以下「公文書館」という。）が、県の機関及び県が設立した地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。）から引渡しを受けた現用でなくなった公文書（県の機関の職員並びに県が設立した地方独立行政法人の役員及び職員が職務上作成し、又は取得した文書、地図、図書類及びマイクロフィルムをいう。）その他の記録（以下「公文書等」という。）の中から歴史資料として重要な公文書等（以下「歴史的公文書等」という。）を選別するための基準を次のとおり定め、平成5年11月1日から施行している。

1 方針

歴史的公文書等は、県民共有の財産として永く後世に伝えられ、神奈川の歴史形成に寄与するものであるため、その選別は偏りがなく、公正で客観的に行うこととする。

2 選別される歴史的公文書等

公文書等のうち、歴史的公文書等として選別される公文書等は、次のいずれかに該当するものとする。

- (1) 県民生活の推移が歴史的に跡付けられる公文書等で、次に掲げるもの
 - ア その時代の世相、世論等が象徴的又は特徴的に表れている公文書等
 - イ 県民生活に影響が生じた犯罪、事故等の事件に関する公文書等
 - ウ 県民活動又は県民の動きを反映している公文書等
 - エ 県民生活における健康、安全、衛生、福祉等に関する公文書等
 - オ 災害及び災害対策活動に関する公文書等
 - カ 生活、自然等の環境について顕著な変化の内容を明示する公文書等
 - キ 公共性の高い事業に関する公文書等
 - ク 画期的又はユニークな活動、建造物等に関する公文書等
 - ケ 史跡、入会地、寺社、伝統的な行事が行われる場所その他由緒ある土地、建造物等に関する公文書等
 - コ その他県内で起き、又は県にかかわりのあった政治的、経済的又は社会的に重要な儀式、行事、事件等に関する公文書等
- (2) 県行政の推移が歴史的に跡付けられる公文書等で、次に掲げるもの
 - ア 顕著な行政効果をもたらした県事業の実施に関する公文書等
 - イ 県民の高い関心を呼んだ県事業の実施に関する公文書等
 - ウ 県の総合計画及び部局単位の事業計画の策定及び立案に関する公文書等（実施されなかったものにあつては、その計画について県民の高い関心を呼んだものに限る。）
 - エ 多額の事業費を要した県事業の実施に関する公文書等
 - オ 県行政の管理運営上重要な公文書等
- (3) 昭和20年以前に作成し、又は取得した公文書等

3 細目基準の制定

公文書館の長は、2に定める歴史的公文書等の選別を適正に行うため、次に掲げる公文書等の区分により、細目基準を定めなければならない。

- (1) 条例、規則、訓令、通達等の例規に関する公文書等
- (2) 県の各種制度及び行政組織の新設及び改廃に関する公文書等
- (3) 市町村の廃置分合等に関する公文書等
- (4) 地方自治制度に関する公文書等
- (5) 選挙に関する公文書等
- (6) 事務引継書
- (7) 議会、各種委員会、審議会、主要会議等の審議経過及び結果に関する公文書等
- (8) 諮問及び答申に関する公文書等
- (9) 調査、統計及び研究に関する公文書等
- (10) 予算、決算及び収支等財政状況に関する公文書等
- (11) 起債、補助金及び貸付金に関する公文書等
- (12) 県有財産の取得、管理及び処分に関する公文書等
- (13) 許認可、免許、承認等に関する公文書等
- (14) 監査、検査等に関する公文書等
- (15) 主要職員及び各種委員の人事に関する公文書等
- (16) 叙位、叙勲、褒章、表彰等に関する公文書等
- (17) 争訟（訴訟、土地収用裁決、審査請求、異議申立て等をいう。）に関する公文書等
- (18) 行政代執行に関する公文書等
- (19) 陳情、請願、要望等に関する公文書等
- (20) 県の総合計画に関する公文書等
- (21) 公共施設の建築等のハード事業の実施に関する公文書等
- (22) 各種施策、行政運営上のシステム等のソフト事業の実施に関する公文書等
- (23) 県内の史跡、文化財等に関する公文書等
- (24) 外国及び外国人に関する公文書等
- (25) 儀式、行事その他事件に関する公文書等
- (26) その他（1）から（25）までに属さない公文書等

4 公文書館の長への委任

この基準の実施に関し必要な事項は、公文書館の長が定める。

前文（抄）（平成21年12月28日告示第691号）

地方独立行政法人神奈川県立病院機構の成立の日から施行する。

6 公文書館法

(昭和 62 年 12 月 15 日法律第 115 号)

(目的)

第 1 条 この法律は、公文書等を歴史資料として保存し、利用に供することの重要性にかんがみ、公文書館に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第 2 条 この法律において「公文書等」とは、国又は地方公共団体が保管する公文書その他の記録（現用のものを除く。）をいう。

(責務)

第 3 条 国及び地方公共団体は、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を有する。

(公文書館)

第 4 条 公文書館は、歴史資料として重要な公文書等（国が保管していた歴史資料として重要な公文書その他の記録を含む。次項において同じ。）を保存し、閲覧に供するとともに、これに関連する調査研究を行うことを目的とする施設とする。

2 公文書館には、館長、歴史資料として重要な公文書等についての調査研究を行う専門職員その他必要な職員を置くものとする。

第 5 条 公文書館は、国立公文書館法（平成 11 年法律第 79 号）の定めるもののほか、国又は地方公共団体が設置する。

2 地方公共団体の設置する公文書館の当該設置に関する事項は、当該地方公共団体の条例で定めなければならない。

(資金の融通等)

第 6 条 国は、地方公共団体に対し、公文書館の設置に必要な資金の融通又はあつせんに努めるものとする。

(技術上の指導等)

第 7 条 内閣総理大臣は、地方公共団体に対し、その求めに応じて、公文書館の運営に関し、技術上の指導又は助言を行うことができる。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して 6 月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(専門職員についての特例)

2 当分の間、地方公共団体が設置する公文書館には、第 4 条第 2 項の専門職員を置かないことができる。

(総理府設置法の一部改正)

3 総理府設置法（昭和 24 年法律第 127 号）の一部を次のように改正する。

第 4 条第 7 号の次に次の 1 号を加える。

7 の 2 公文書館法（昭和 62 年法律第 115 号）の施行に関すること。

附 則（平成 11 年 12 月 22 日法律第 161 号）抄

(施行期日)

第 1 条 この法律は、平成 13 年 1 月 6 日から起算して 6 月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

7 年度別利用状況一覧

(1) 資料収蔵状況

区分	平成6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	
歴史的公文書(点)	84,258	5,524	6,902	10,356	9,310	13,249	12,022	11,833	8,271	7,068	7,489	
古文書・私文書(点)	81,225	818	1,018	6,569	16,968	3,046	4,229	3,072	1,188	2,585	2,711	
行政刊行物・図書(点)	134,057	4,023	3,217	2,849	2,228	2,588	2,252	5,136	2,086	2,726	5,242	
その他 (点)	フィルム類	17,690	344	1,268	426	560	2,517	873	892	794	1,033	1,434
	県史編集資料	141,428	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	159,118	344	1,268	426	560	2,517	873	892	794	1,033	1,434
計	458,658	10,709	12,405	20,200	29,066	21,400	19,376	20,933	12,339	13,412	16,876	

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
歴史的公文書(点)	5,910	5,988	5,645	5,305	4,423	3,887	4,065	3,538	3,780	4,859	4,050	
古文書・私文書(点)	2,414	2,669	2,206	13	15,381	4,032	2,997	242	5,839	365	1,463	
行政刊行物・図書(点)	3,800	*△26,703	3,451	2,987	3,000	2,777	2,816	1,953	2,086	2,073	1,728	
その他 (点)	フィルム類	594	545	602	657	455	408	530	220	352	155	736
	県史編集資料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	594	545	602	657	455	408	530	220	352	155	736
計	12,718	△17,501	11,904	8,962	23,259	11,104	10,408	5,953	12,057	7,452	7,977	

※数量更正
△31,436

区分	28年度	29年度	計	
歴史的公文書(点)	3,126	3,135	233,993	
古文書・私文書(点)	10,037	283	171,370	
行政刊行物・図書(点)	1,992	1,945	170,309	
その他 (点)	フィルム類	531	356	33,972
	県史編集資料	-	-	141,428
	小計	531	356	175,400
計	15,686	5,719	751,072	

(2) 閲覧室利用状況

区 分	平成5・6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	
利用者数 (人)	18,023 46.9/日	10,849 38.7/日	9,775 35.4/日	10,342 37.3/日	11,348 40.5/日	11,756 42.1/日	12,679 45.8/日	10,647 38.4/日	11,450 41.4/日	11,138 39.8/日	13,078 46.9/日	
区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
利用者数 (人)	11,761 42.2/日	10,823 38.8/日	9,311 33.4/日	8,338 30.1/日	8,754 31.6/日	9,337 33.5/日	9,883 35.3/日	8,217 29.5/日	7,652 27.4/日	7,426 26.5/日	8,049 28.5/日	
区 分	28年度	29年度	計									
利用者数 (人)	8,132 29.3/日	8,978 32.3/日	247,746 36.3/日									

(3) 資料区別閲覧者数及び閲覧点数

区 分		平成5・6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
歴史的 公文書	利用者数(人)	92	92	106	111	85	114	127	173	133	192	153
	閲覧点数(点)	353	359	439	392	380	390	469	582	510	1,353	707
古文書・ 私文書	利用者数(人)	159	181	187	131	210	239	260	175	152	183	140
	閲覧点数(点)	5,276	4,394	2,984	1,069	4,367	3,332	6,901	2,541	1,230	2,733	758
マイクロ フィルム	利用者数(人)	49	24	30	28	37	76	54	39	40	34	38
	閲覧点数(点)	217	95	892	84	197	478	294	180	120	69	115
行政刊行物 図 書	利用者数(人)	285	162	170	158	147	134	134	162	148	249	217
	閲覧点数(点)	1,856	1,185	659	543	760	403	477	805	593	1,080	870
その他の 資 料	利用者数(人)	120	68	52	54	68	40	58	29	65	84	45
	閲覧点数(点)	920	438	294	321	982	428	304	73	537	320	236
計	利用者数(人)	705	527	545	482	547	603	633	578	538	742	593
	閲覧点数(点)	8,622	6,471	5,268	2,409	6,686	5,031	8,445	4,181	2,990	5,555	2,686

区 分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
歴史的 公文書	利用者数(人)	203	302	360	431	343	420	391	327	321	257	295
	閲覧点数(点)	1,145	1,688	1,743	1,826	997	1,489	1,553	1,562	1,700	1,259	1,494
古文書・ 私文書	利用者数(人)	165	228	204	247	294	354	408	323	352	299	316
	閲覧点数(点)	1,444	1,794	1,606	2,359	3,395	4,052	5,707	4,464	4,183	3,166	3,731
マイクロ フィルム	利用者数(人)	53	81	87	79	75	73	66	63	55	59	71
	閲覧点数(点)	145	624	221	356	213	166	282	172	132	135	170
行政刊行物 図 書	利用者数(人)	149	191	170	174	145	193	184	190	243	212	200
	閲覧点数(点)	576	681	732	554	483	881	629	652	877	607	726
その他の 資 料	利用者数(人)	62	67	35	33	33	44	37	41	50	46	35
	閲覧点数(点)	262	313	132	124	98	216	283	76	123	250	119
計	利用者数(人)	632	869	856	964	890	1,084	1,086	944	1,021	873	917
	閲覧点数(点)	3,572	5,100	4,434	5,219	5,186	6,804	8,454	6,926	7,015	5,417	6,240

区 分		28年度	29年度	計
歴史的 公文書	利用者数(人)	292	391	5,711
	閲覧点数(点)	1,642	2,453	26,485
古文書・ 私文書	利用者数(人)	393	344	5,944
	閲覧点数(点)	5,237	4,159	80,882
マイクロ フィルム	利用者数(人)	59	60	1,330
	閲覧点数(点)	264	273	5,894
行政刊行物 図 書	利用者数(人)	189	231	4,437
	閲覧点数(点)	690	848	18,167
その他の 資 料	利用者数(人)	31	42	1,239
	閲覧点数(点)	89	9,490	16,428
計	利用者数(人)	964	1,068	18,661
	閲覧点数(点)	7,922	17,223	147,856

(4) 展示観覧状況

区 分	平成5・6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
展示回数(回)	5	3	3	3	4	3	3	3	3	4	4
展示日数(日)	328	223	248	236	250	225	209	207	196	215	279
観覧者数(人)	13,382	4,597	4,459	6,436	6,415	5,914	4,872	3,735	5,368	7,266	11,397

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
展示回数(回)	4	4	6	5	5	4	4	8	6	7	5
展示日数(日)	279	279	279	277	277	279	280	292	291	293	295
観覧者数(人)	7,157	7,098	7,295	6,936	6,350	7,172	7,289	6,127	6,165	5,130	5,801

区 分	28年度	29年度	計
展示回数(回)	6	4	101
展示日数(日)	278	278	6,293
観覧者数(人)	8,034	13,170	167,565

※平成24年度からミニ展示も展示回数に含む

(5) 会議室利用状況

区 分	平成5・6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
大会議室(回)	37	21	23	24	24	38	48	54	77	63	74
中会議室(回)	18	24	23	31	43	49	39	53	51	61	80
小会議室(回)	63	25	31	31	33	40	37	34	58	87	92
計	118	70	77	86	100	127	124	141	186	211	246

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
大会議室(回)	57	55	49	49	48	53	51	70	58	62	71
中会議室(回)	70	60	64	63	92	59	68	77	67	63	75
小会議室(回)	84	74	86	87	93	91	104	122	102	83	106
計	211	189	199	199	233	203	223	269	227	208	252

区 分	28年度	29年度	計
大会議室(回)	66	82	1,254
中会議室(回)	67	48	1,345
小会議室(回)	100	108	1,771
計	233	238	4,370

(6) 書庫の収納区分

区 分	収納書庫の種類	床面積 (㎡)
1号書庫	歴史的公文書 (5年・3年保存のフォルダー)	460
2号書庫	30年・10年保存の現用公文書 (中間保管庫)	370
3号書庫	歴史的公文書 (30年・10年保存の簿冊)、神奈川県史編纂資料等	680
4号書庫	古文書 主に寄贈・購入資料	280
5号書庫	古文書 主に寄託資料	180
6号書庫	歴史的公文書 (フォルダー)、行政刊行物、参考図書、雑誌等	680
7号書庫	歴史的公文書 (フォルダー)、ゆめ国体資料、16ミリフィルム等	460
フィルムテープ 保管庫	マイクロフィルム、ビデオテープ、CD等	79
計		3,189

(7) 古文書講座の開催状況

区 分		平成56年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
入 門	開催回数(回)	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	受講者数(人)	598	135	157	142	143	136	140	146	181	148
中 級	開催回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	受講者数(人)	155	144	154	132	147	144	133	149	135	135
上 級	開催回数(回)		1	1	1	1	1	1	1	1	1
	受講者数(人)		159	157	127	143	131	115	109	109	101
一 日	開催回数(回)			1	1	1	1	1	1	1	1
	受講者数(人)			114	65	59	98	61	54	62	40
計	開催回数(回)	5	3	4	4	4	4	4	4	4	4
	受講者数(人)	753	438	582	466	492	509	449	458	487	424

区 分		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	計
入 門	開催回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22
	受講者数(人)	142	154	155	149	161	152	148	152	141	3,280
中 級	開催回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	19
	受講者数(人)	147	141	149	142	148	145	154	120	156	2,730
上 級	開催回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18
	受講者数(人)	116	150	146	130	156	151	150	159	154	2,463
一 日	開催回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
	受講者数(人)	54	34	62	49	56	84	46	50	53	1,041
計	開催回数(回)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76
	受講者数(人)	459	479	512	470	521	532	498	481	504	9,514

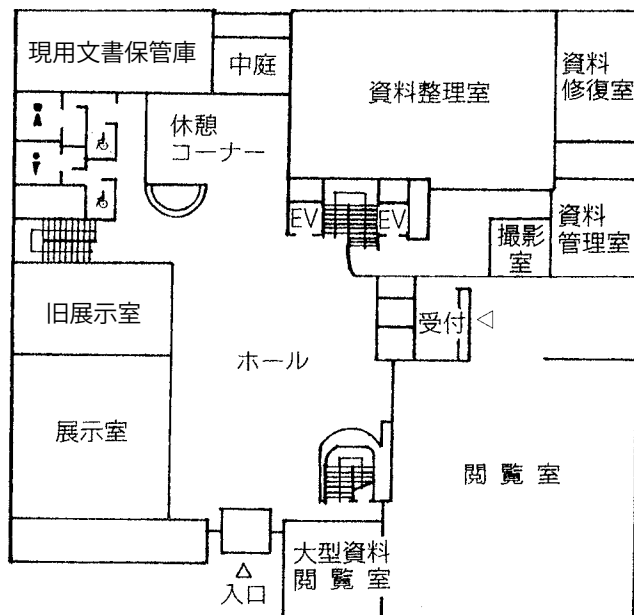
区 分		25年度	26年度
はじめて	開催回数(回)	2	2
	受講者数(人)	210	220
基 礎	開催回数(回)	1	1
	受講者数(人)	147	151
応 用	開催回数(回)	1	1
	受講者数(人)	149	150
一 日	開催回数(回)	1	-
	受講者数(人)	26	-
計	開催回数(回)	5	4
	受講者数(人)	532	521

区 分		27年度	28年度	29年度
入 門 編	開催回数(回)	2	2	2
	受講者数(人)	212	245	264
応 用 編	開催回数(回)	1	1	1
	受講者数(人)	119	153	144
計	開催回数(回)	3	3	3
	受講者数(人)	331	398	408

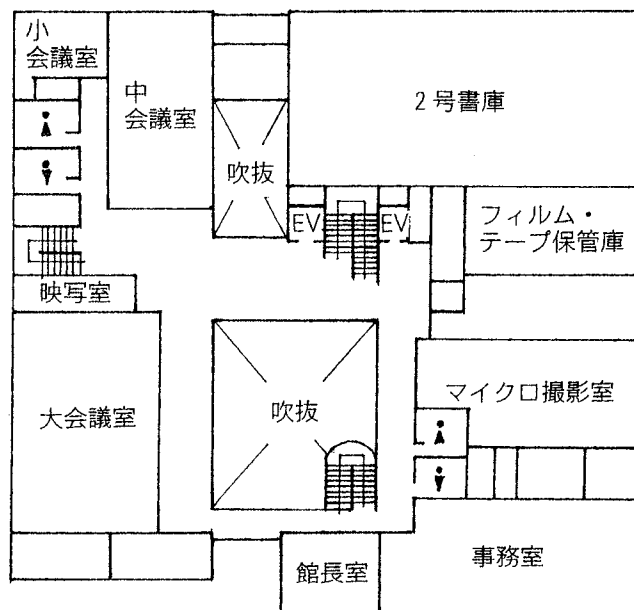
※平成 25、27 年度に講座内容を見直して構成を変更した。

8 神奈川県立公文書館 平面図

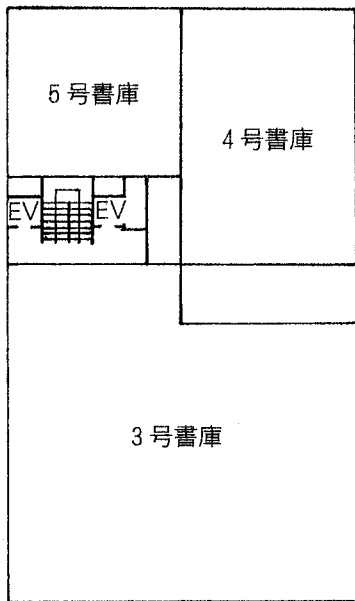
1階



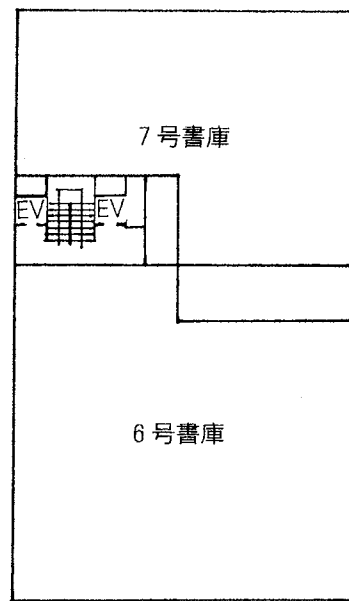
2階



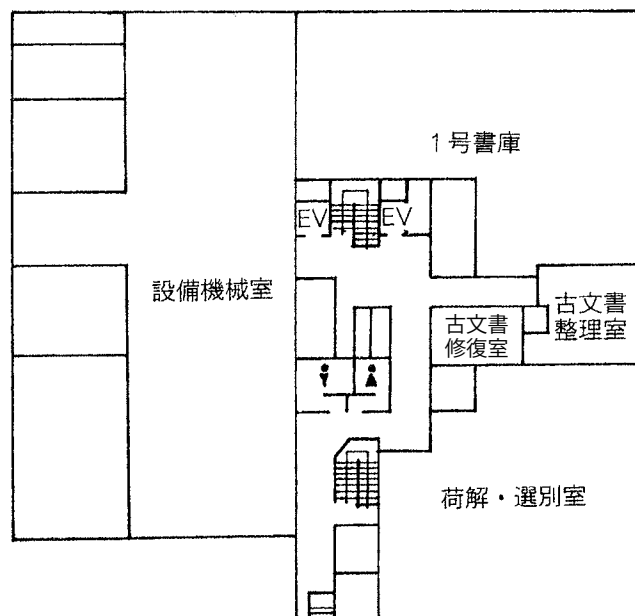
3階



4階



地階



9 都道府県公文書館一覧

平成30年3月31日現在

番号	公文書館名	所在地	電話番号
1	北海道立文書館	〒060-8588 札幌市中央区北三条西6丁目	011-204-5073
2	青森県公文書センター	〒030-8570 青森市長島1-1-1	017-722-1111
3	宮城県公文書館	〒981-3205 仙台市泉区紫山1-1-1	022-341-3231
4	秋田県公文書館	〒010-0952 秋田市山王新町14-31	018-866-8301
5	山形県公文書センター	〒991-8501 寒河江市大字西根字石川西355	0237-83-1215
6	福島県歴史資料館	〒960-8116 福島市春日町5-54	024-534-9193
7	茨城県立歴史館	〒310-0034 水戸市緑町2-1-15	029-225-4425
8	栃木県立文書館	〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20	028-623-3450
9	群馬県立文書館	〒371-0801 前橋市文京町3-27-26	027-221-2346
10	埼玉県立文書館	〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-3-18	048-865-0112
11	千葉県文書館	〒260-0013 千葉市中央区中央4-15-7	043-227-7555
12	東京都公文書館	〒158-0094 世田谷区玉川1-20-1	03-3707-2601
13	神奈川県立公文書館	〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1	045-364-4456
14	新潟県立文書館	〒950-8602 新潟市中央区女池南3-1-2	025-284-6011
15	富山県公文書館	〒930-0115 富山市茶屋町33-2	076-434-4050
16	福井県文書館	〒918-8113 福井市下馬町51-11	0776-33-8890
17	長野県立歴史館	〒387-0007 千曲市大字屋代260-6	026-274-2000
18	岐阜県歴史資料館	〒500-8014 岐阜市夕陽ヶ丘4	058-263-6678
19	愛知県公文書館	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-3-2	052-954-6025
20	三重県総合博物館	〒514-0061 津市一身田上津部田3060	059-228-2283
21	滋賀県県政史料室	〒520-8577 大津市京町4-1-1	077-528-3126
22	京都府立京都学・歴史館	〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-29	075-723-4831
23	大阪府公文書館	〒540-8570 大阪市中央区大手前2-1-22	06-6944-8374
24	兵庫県公館県政資料館	〒650-8567 神戸市中央区下山手通4-4-1	078-362-4133
25	奈良県立図書情報館	〒630-8135 奈良市大安寺西1-1000	0742-34-2111
26	和歌山県立文書館	〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38	073-436-9540
27	鳥取県立公文書館	〒680-0017 鳥取市尚徳町101	0857-26-8160
28	島根県公文書センター	〒690-8501 松江市殿町1 島根県庁第3分庁舎1階	0852-22-6889
29	岡山県立記録資料館	〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1	086-222-7838
30	広島県立文書館	〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47	082-245-8444
31	山口県文書館	〒753-0083 山口市後河原150-1	083-924-2116
32	徳島県立文書館	〒770-8070 徳島市八万町向寺山文化の森総合公園内	088-668-3700
33	香川県立文書館	〒761-0301 高松市林町2217-19	087-868-7171
34	福岡県立公文書館	〒818-0041 筑紫野市上古賀1-3-1	092-919-6166
35	佐賀県公文書館	〒840-0041 佐賀市城内1-6-5	0952-25-7365
36	大分県公文書館	〒870-0008 大分市王子西町14-1	097-546-8840
37	宮崎県文書センター	〒880-8501 宮崎市橘通東2-10-1	0985-28-8760
38	沖縄県公文書館	〒901-1105 島尻郡南風原町字新川148-3	098-888-3875

平成29年度神奈川県立公文書館年報

平成30年7月

編集・発行 神奈川県立公文書館

〒241-0815 横浜市旭区中尾一丁目6番1号

TEL 045(364)4454 閲覧室

045(364)4456 管理企画課

045(364)4461 資料課

045(364)4463 資料課

FAX 045(364)4459

URL <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f1040/>

Twitter @kana_archives



神奈川県

公文書館

横浜市旭区中尾1-6-1

〒241-0815